

平成26年度

柏市学力・学習状況調査結果報告書

「課題解決力を育む授業改善を…」

平成26年7月

柏市教育委員会

課題解決力を育む授業改善を

柏市教育委員会
教育長 河原 健

教育の仕事は、子どもたち一人一人の「未来につながる“今”」を育てる仕事です。この学力学習状況調査の結果も、この視点を持って分析していくことが大切です。つまり、手元にある調査結果は、子どもたちの「今」の状況の一側面を忠実に表したもので、これを元に未来につなげる手立てを見出すことが、分析することだと考えます。

調査結果を「未来につながる今」と捉えるためには、子どもたちが進む未来の社会がどのような社会になるのか、そこで求められる人間像は何か、必要とされる学力は何か、を知らなければなりません。

子どもたちが生きる21世紀中盤の社会は、「知識基盤型社会」と呼ばれています。知識は、覚えていることに価値があるのではなく、それを使って目の前の課題を解決していく力に価値が見いだされる社会となります。そのような社会では、基礎的基本的な知識や技能を、課題解決のために活用する思考力・判断力や表現力と、答えが見えなくても前向きに課題を解決し続けようとする意欲こそが、大切な学力であるとされます。

また、今年小学校に入学した子どもの65%は、現在存在しない職業に就職するだろうという予測があります。このように、変化が激しく見通しが持ちにくい社会に船出をする全ての子どもたちに、最も必要で大切な力は、どんな状況下においても、解決の可能性を追求し続ける、学ぶ意欲ではないかと考えます。

子どもたちが進む社会につなぐ“次の手”を見いだしていくことが、今の私たちに求められている仕事だと考えています。

各学校において、校長先生のリーダーシップの元、各校の目指す子どもの姿と未来の社会を見据えた上で、結果と向き合い、子どもたちの強みと弱みを共有し、“次の手”となる授業改善策を共有してほしいと願います。

教育委員会の分析から、全校で共有したい“次の手”は次の2点です。

- ・授業そのものを課題解決型の授業に変えていくこと。
- ・課題解決型の授業により、言語活動を活発にし、みんなで学ぶ共同意識を育てていくこと。

本報告書は、そのことに力点をおいて、現場と共に「未来につながる“今”」を育てていくために、柏市教育委員会が刊行するものです。

平成26年度 柏市学力・学習状況調査結果報告書 目次

◆教育長巻頭言 「課題解決力を育む授業改善を」	1
■柏市学力・学習状況調査概要及び結果について	2
□柏市学力学習状況調査内容について	
□学力状況結果一覧	
□過去3年間の学力状況の推移一覧	
■小学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	6
■小学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	8
■小学校【第4学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	10
■小学校【第5学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	12
■小学校【第6学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	14
■中学校【第1学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	16
■中学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	18
■中学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	20
■中学校【第2学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	22
■中学校【第3学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	24
■小学校【第2学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	26
■小学校【第3学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	28
■小学校【第4学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	30
■小学校【第5学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	32
■小学校【第6学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	34
■中学校【第1学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	36
■中学校【第2学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	38
■中学校【第3学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	40
■中学校【第2学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	42
■中学校【第3学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	44
■中学校【第2学年英語】学力状況調査結果及び指導改善案	46
■中学校【第3学年英語】学力状況調査結果及び指導改善案	48
■生活・学習意識調査結果及び学力との関連について	
□ICT活用に関する意識と課題	50
□学校図書館の活用は児童生徒の21世紀型学力を育む	52
□学習状況調査に見られる小中連携の効果	54
■分析用エクセルシートの使用方法	56

柏市学力・学習状況調査の概要及び結果について

実施日 平成26年4月（各学校が設定した日）

実施校 柏市内小中学校（小学校 42校 中学校 20校）

実施学年及び実施教科等

学校種	学年	人数	実施教科等
小学校	2年	3,445人	国語及び算数（2教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	3年	3,413人	
	4年	3,535人	
	5年	3,526人	
	6年	3,546人	
中学校	1年	3,320人	国語及び数学（2教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	2年	3,193人	国語，数学，社会，理科，英語（5教科）
	3年	3,182人	生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）

柏市学力・学習状況調査内容について

【学力調査事項】

- ・児童生徒の前年度の履修内容を調査。
- ・出題内容は、学習指導要領の評価の観点に基づいて出題。
- ・基礎問題と活用問題で構成されており、活用問題は「思考力・判断力」「表現力」を問う問題で出題。
- ・国語と英語は全学年で聞き取り問題と作文を出題。
- ・記述論述問題を一定量（35～50%）出題し、作図や作文の問題、論理的思考力や考えるプロセスを考慮した問題を出題。

【生活・学習意識調査事項】

- ・学習意欲，学習習慣，生活習慣，学校図書館やICTの活用等に関するアンケート調査。
小2（一部小4）から中3まで，同一設問で調査。

【学力調査分析内容について】

学年・教科別に正答状況を数値で示す。

まず，当該学年教科について，全国の平均正答率と本市の平均正答率を比較し，レーダーチャート図に整理したもので全体傾向を把握できるようにした。

次に，経年変化として，本年度の当該学年教科の平均正答率と，同一児童生徒の1年前のものとの比較，前年度同学年の児童生徒のものとの比較を，レーダーチャート図にまとめております。子どもたち自身の成長を把握すると同時に，前年度の子どもたちとの比較をし，経年変化を2側面から分析した。

調査結果から把握できる，子どもたちの良さ（強み）と課題を示し，良さを伸ばしつつ，課題を克服していくための授業改善について，改善の方向性や具体的指導例を示した。

【生活・学習意識調査について】

学ぶ意欲，学校図書館活用，ICT活用の度合いと，学習状況との比較を行い，よりよい授業改善に資する内容を記載した。

柏市学力状況結果一覧

【目標値とは，問題作成時に十分に学力が備わっている状況として設定され，統計的に処理されている期待値】

小学校	評価欄説明 ≡ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	国語					算数				
		全体	基礎	活用	思考判断	表現	全体	基礎	活用	思考判断	表現
2年	柏市平均正答率	81.3	86.4	56.8	56.2	57.4	84.6	89.7	64.8	65.0	63.2
	全国 平均正答率	80.0	85.3	55.2	53.3	57.0	84.0	89.1	64.4	65.0	60.5
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	△	△	≡	≡	△
3年	柏市平均正答率	78.5	81.4	67.3	72.3	59.7	76.7	80.5	57.3	61.8	48.2
	全国 平均正答率	78.2	81.4	65.4	70.6	57.5	75.9	79.7	55.8	60.1	47.3
	評価	≡	≡	△	△	≡	≡	≡	≡	△	≡
4年	柏市平均正答率	71.0	75.7	49.0	49.5	48.1	73.5	79.7	49.7	51.4	44.8
	全国 平均正答率	70.1	74.9	48.1	50.4	44.7	72.6	78.9	48.0	50.8	39.5
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	△	△	△	△	△
5年	柏市平均正答率	74.6	78.1	57.7	62.8	50.0	69.3	72.0	55.0	54.5	56.1
	全国 平均正答率	72.3	75.6	56.9	61.1	50.5	68.1	71.0	52.9	53.1	52.4
	評価	△	△	≡	≡	≡	△	△	△	≡	△
6年	柏市平均正答率	72.5	77.0	51.1	54.0	46.7	67.0	72.0	44.7	52.7	25.0
	全国 平均正答率	72.1	76.6	50.1	53.8	44.6	66.7	71.7	44.5	52.2	25.2
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡

中学校	評価欄説明 ≡ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	国語					社会				
		全体	基礎	活用	思考判断	表現	全体	基礎	活用	思考判断	表現
1年	柏市平均正答率	67.7	71.3	55.9	62.0	40.8	調査実施無し				
	全国 平均正答率	68.5	72.6	55.2	62.1	37.9					
	評価	≡	≡	≡	≡	≡					
2年	柏市平均正答率	67.5	68.8	62.8	65.5	56.1	51.9	54.1	40.5	31.6	54.2
	全国 平均正答率	71.7	73.9	63.8	67.2	55.2	53.8	55.9	42.6	33.4	56.5
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	△
3年	柏市平均正答率	66.7	70.1	54.4	46.2	74.8	52.0	54.8	37.3	34.8	41.1
	全国 平均正答率	67.6	71.2	54.1	45.6	75.2	56.4	59.0	42.8	39.7	47.5
	評価	≡	≡	≡	≡	△	≡	≡	≡	▼	≡

中学校	評価欄説明 ≡ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	数学					理科				
		全体	基礎	活用	思考 判断	表現	全体	基礎	活用	思考 判断	表現
1年	柏市平均正答率	67.4	67.6	66.1	76.9	44.6	調査実施無し				
	全国 平均正答率	68.4	68.7	66.6	76.5	46.7					
	評価	≡	≡	≡	△	≡					
2年	柏市平均正答率	58.8	62.7	44.0	48.8	29.6	52.9	57.2	38.0	40.0	32.0
	全国 平均正答率	59.5	63.7	43.6	48.4	29.2	55.8	60.0	41.3	42.1	38.8
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	▼
3年	柏市平均正答率	56.6	60.3	37.5	37.1	38.1	55.3	59.1	43.4	45.0	40.1
	全国 平均正答率	56.0	59.4	38.5	41.1	33.2	54.5	58.3	42.6	44.0	39.9
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡

中学校	評価欄説明 ≡ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	英語				
		全体	基礎	活用	思考 判断	表現
1年	柏市平均正答率	履修前のため実施無し				
	全国 平均正答率					
	評価					
2年	柏市平均正答率	60.5	64.7	49.9	63.0	41.2
	全国 平均正答率	58.8	63.8	46.2	62.6	35.4
	評価	≡	≡	△	≡	△
3年	柏市平均正答率	61.1	66.3	48.2	60.9	39.7
	全国 平均正答率	58.1	64.3	42.7	56.7	33.4
	評価	≡	≡	△	△	≡

柏市平均正答率は、全国の正答率とほぼ同程度であり、全体的にはやや上回る傾向である。この傾向は、過去3年間同様の結果を得ているが、今年度は具体的に平均正答率を数値として示した。今後数値目標として、小学校平均正答率 75、中学校では平均正答率 65 を掲げ、各学校におけるきめ細やかな指導の充実を図りたい。

中学校社会科、理科において、全国平均を下回る結果を得ている。このことは、小学校からの指導の積み重ねにも課題があると捉え、小中が連携して結果の分析や指導改善策の検討を行って欲しい。

各学校に返送されている結果は、校内ではもちろん、中学校区の学校と共有し、中学校区として子どもをどう育てるかという議論に使い、授業改善につながることを期待する。

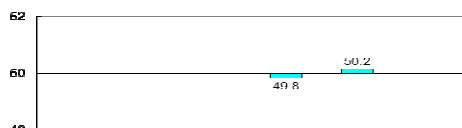
過去3年間の学力状況の推移一覧

過去3年間の児童生徒の変化を標準化得点によりグラフ化したものを示す。

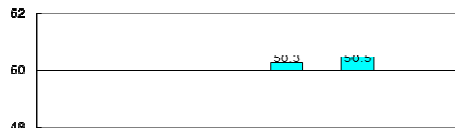
【中央の線が標準スコアとなり、良い場合は上向き、劣る場合は下向きに表示】

現3年生

国語

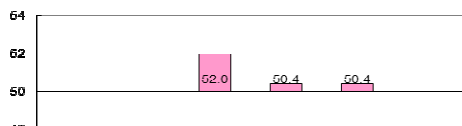


算数

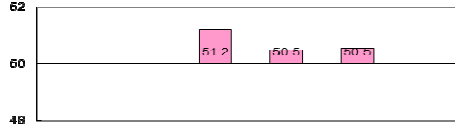


現4年生

国語

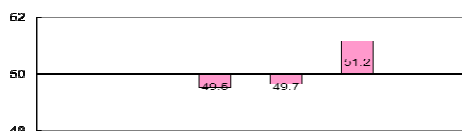


算数

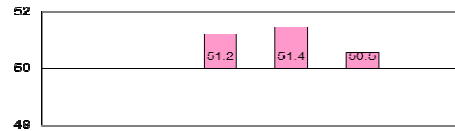


現5年生

国語

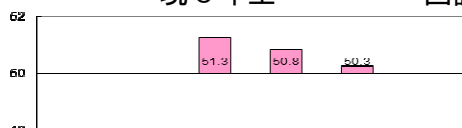


算数

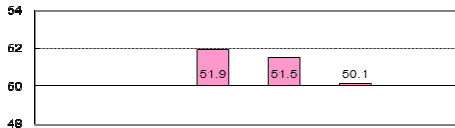


現6年生

国語



算数

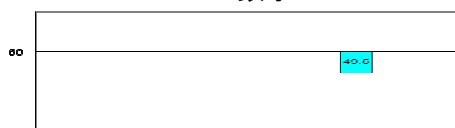


現中1年生

国語

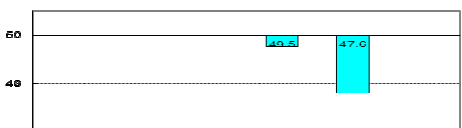


数学

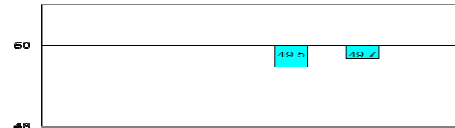


現中2年生

国語

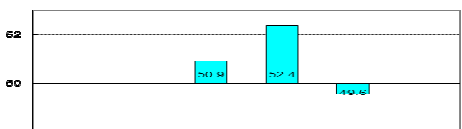


数学

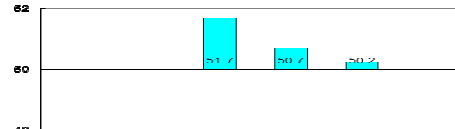


現中3年生

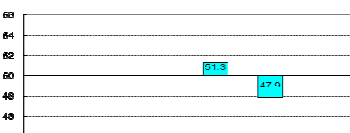
国語



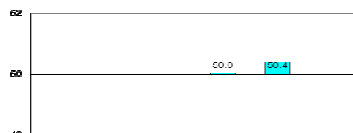
数学



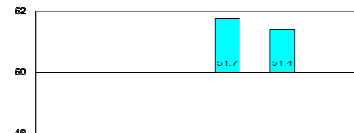
社会



理科



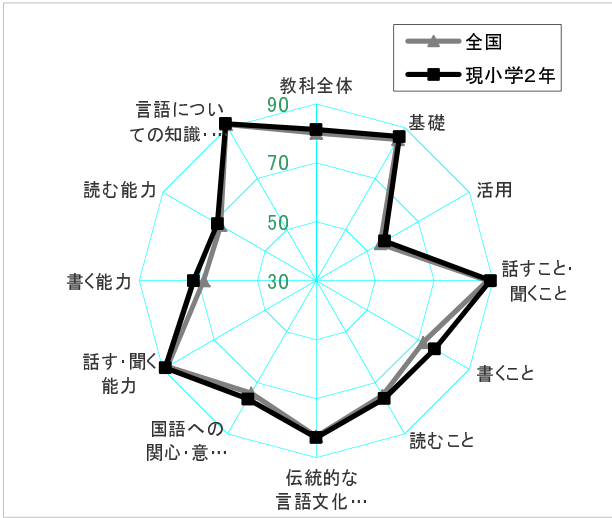
英語



同一集団の児童生徒の状況を3年間追うと、経年により力が落ちていく傾向が見られる。これは、昨年度の結果に見られた「学習意欲の低下」と同様である。学ぶ意義や楽しさを見いださせ、低下を防ぐ工夫を図っていきたい。

小学 2年 国語

1. 全体傾向

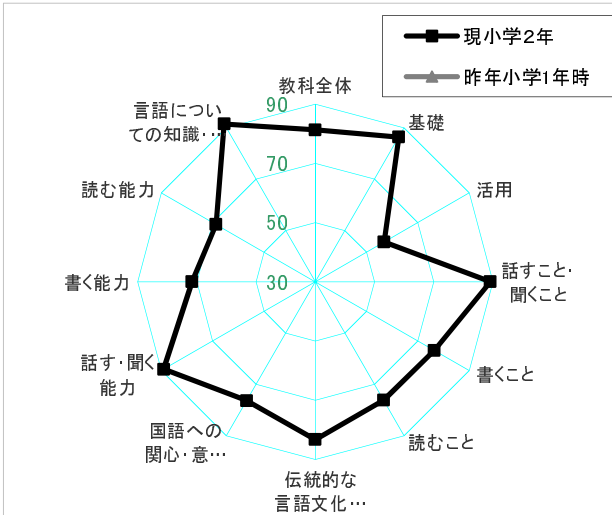


・観点別では、全国の平均正答率と同等もしくはやや上回る結果が出ており、平均的な学力を有していると考えられる。

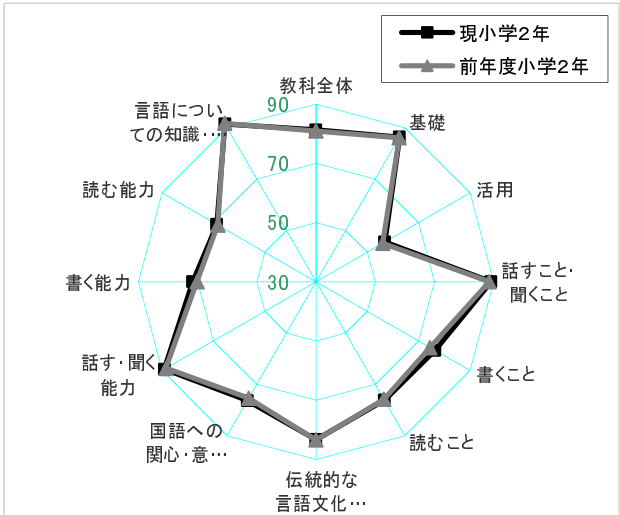
・領域の「書くこと」及び観点の「書く能力」については、全国の平均正答率と比べて4ポイント程度上回り、書く力が高い傾向がある。

・問題別の正答率では、「与えられた情報を読み取って、例にならって文を書く」問題では、全国平均と比較すると良いが、目標値よりも6ポイント以上低く、さらに18.4%が無回答であった。自由記述型の出題に対する課題があると考えられる。

2. 経年変化



・第1学年未実施



・昨年度の傾向とほぼ一致しているが、わずかながらほとんど全ての項目において、上回っている。

3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○平均正答率が81.3ポイントであり、今回出題された学習内容については、概ね身につけていると考えられる。

○「自分の考えが明確になるように文を書くことができる」が昨年度よりも5ポイント以上向上しており、全国の平均正答率と比べても高いことから、現小学2年生の強みと言える。

●課題のある問題を見ると、次の3点の対策が考えられる。

(1)1年生から言葉遊びを通して語彙を増やす取り組みを積極的に行っていくこと。

(2)説明文の発達段階に応じた基本構造の理解と問いと答えの呼応が必然となる学習活動を行うこと。

4. 授業改善の方向、効果的指導例

説明文を正確に読み取る 「問い」と「答え」の呼応が必然となる学習活動を仕組む

☆ 文末表現の違いを使わなければならない言語活動を組む☆

○『問い』の文末表現と『答え』の文末表現が必ず出る「クイズブック」を作ろう

「～でしょうか。」のように文末に「か」で終わっている文が問いの文だと説明しても、なかなか理解が深まらない子供が多い。しかし、クイズといった子供が関心のある活動を取り入れ、「クイズブック」を作ろうという言語活動を取り入れることにより、どの子も、問いの文と答えの文と説明の文の3文構成の文章を作らなければならない状況になります。クイズブックを作るという課題を解決する中で、説明文の基本構造と基本的な書き表し方を身につけていくことができます。

単元を貫く課題解決的な言語活動

(1) 「さけが大きくなるまで」の紙芝居をつくる

場面ごとに読み取った内容を紙芝居に表していく。すべての段落が読み終わると紙芝居ができあがり、それを使ってさけが大きくなる様子と伝えようという活動につなげる。子供たちは、紙芝居をつくるために教材文を読むことになる。

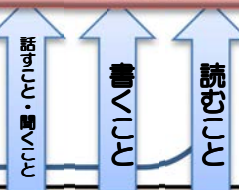
(2) 「かさこじぞう」音読発表会・ペープサート劇をしよう

音読発表や劇をするために物語文を読むという言語活動を設定する。そのような学習活動を通して想像して読む力、読書活動の広がりにつなげる事となる。

(3) 実感のある読みを取り入れる

言葉の力は言葉を実感することが重要です。70cmのさけという表現から実物大の模型をつくり体感することが言葉の力となります。

伝え合う力
(豊かに表現する)



言葉の力をつける 音読指導や言葉遊びの継続

土台

語彙力

語彙力は一朝一夕に身につくものではない。特に音声・言語事項などに関しては、繰り返しの指導が必要となる。「音読」は、正しい音節に従って正しく言葉を音にする活動であり、内容を読み取る能力を育て、言語感覚を磨く基礎となる。「言葉遊び」は、言葉の不思議さ、言葉を学習することの楽しさ、つまり、言葉の本質に触れさせる学習である。

☆音読指導☆

(1) 本読みの構え

- ・読みやすくするために折り目をつける。
- ・口を大きく開けてはっきりと。
- ・歯が2本見えるように開ける

(2) 姿勢

(座) グー(お腹) ペタ(両足) ピン(背中)

(3) 耳・口・指で音読

- ・後追い読みから、耳で聞いて、口で読んで、指で確認をさせる。

(4) 句読点を意識して

- ・分かち書きよりも句読点を意識させて読ませる。

(5) 間の取り方

- ・「、」…1拍休む。「。」…2拍休む。

※千葉県東葛地方教育研究所『音読指導心得帖』より

参考資料

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/002/007.htm

<http://www.djn.co.jp/support/special/point/docs/2012/4/1/1.php>

☆言葉遊び☆

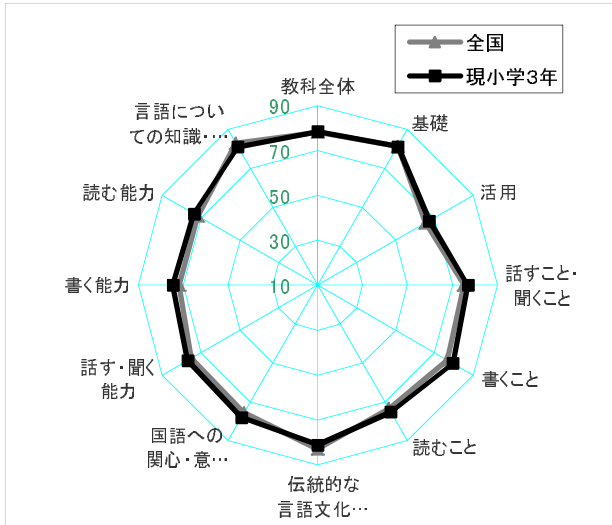
○国語の学習の導入5分間を言葉遊びタイムとして設定するなど意図的・計画的に繰り返し指導する。

- ・言葉あつめ(体に関する言葉、季節に関する言葉など)
- ・なぞなぞ遊びうた
- ・しりとり
- ・言葉の階段 ⇒
- ・絵かき歌
- ・回文
- ・早口言葉

あ
あり
あいす
あさがお
あかとんぼ

小学 3年 国語

1. 全体傾向

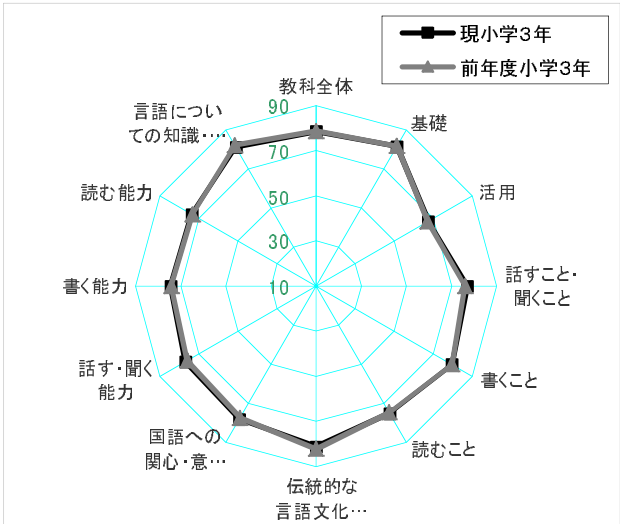
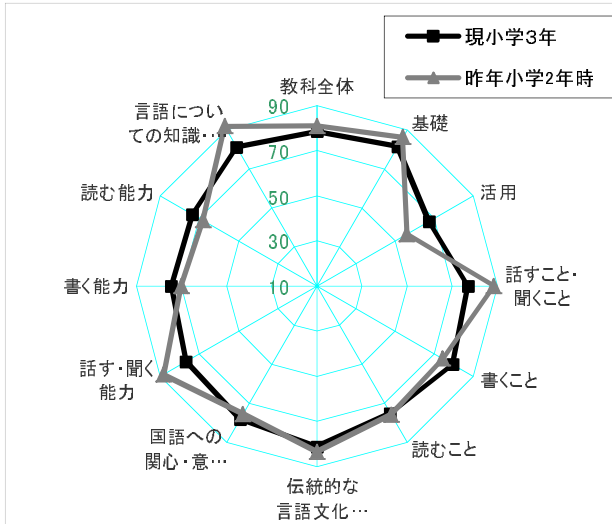


・観点別では、概ね全国正答率と同等もしくは上回る結果が出ている。

・「書くこと・書く能力」において、全国の平均正答率を上回っており、各領域の力もバランスがとれている。

・問題別の正答率を見ると、「第2学年の配当漢字を読む・書く」についての問題で、全国の平均正答率を8問中5問が下回っている。これは3年連続の課題である。

2. 経年変化



・グラフ上の凸凹は、昨年度の状況とほぼ同じであることから、問題傾向の学年差によるものが大きいと考えられる。

・昨年の傾向とほぼ一致している。

3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○平均正答率が78.5%であり、今回出題された学習内容については、国語科でつけるべき力が、バランスよく身につけていると考えられる。

- 正答率の低い問題から、次の2点の対策が考えられる。
 - (1) 1学年から2学年では漢字配当が倍増するため、デジタルコンテンツ等を利用するなど興味・関心を持続させながら、漢字習得のための反復練習を行うこと。
 - (2) 発達段階に応じた説明文の基本構造を理解させるとともに、文章を正確に読み取るためのスキルを確実に身に付けさせていくこと。

4. 授業改善の方向，効果的指導例

正確に文章を読み取る 絵文字の良さを報告文にしよう「くらしと絵文字」

読む力をつけるためには、読む必要感や必然性がある課題解決型の学習が大切。今回は報告文を書くという単元を貫く言語活動を設定し、報告文を書くために教材文を読み、疑問が生じた点や興味が広がった点について、さらに調べて報告文を作成するという単元を設定する。

単元づくりの視点

(1) 書かれている内容で興味を持ったことは何かをもとに読み進める

教材文を段落ごとに読むことはせず、子供たちが興味関心を持った点を発表し、発表をもとに書かれている内容について確認する話し合いを行う。

話し合いの中で、根拠として教材文を読み深めていく。

(2) 書かれている内容からさらに調べてみたいことは何か

説明されている絵文字について、絵文字の目的や表現方法などを読み取り、調べてみたい絵文字が見つかるように読む。並行読書で情報を収集する。

(3) 考えを明確にするためにどのように書き表しているか

筆者が絵文字の説明をするために、どのように書き表しているか、書き表し方の工夫を読み取る。

(4) 報告文を書く

絵文字の種類に応じ、さらに調べてみたい内容について調べたこと原稿用紙一枚程度の報告文に表現する。

(5) 報告文発表会をする

お互いの報告文を読み合い、内容が伝わりやすいか相互に評価しあい、絵文字についての理解と興味を広げる。

漢字指導 「ICT」活用し、読みも書きも簡単に繰り返し練習を

IT 教育支援アドバイザーONLINE「小学校の学習リンク集」より 他にも授業のヒントが、多数掲載

こくごの学習

おすすめ 自作コンテンツ

教室で活用できるコンテンツ

漢字フラッシュカード(柏市教科書対応)

3年下 3年下 3年下

くらしと絵文字

生き物のとくちようを説明しよう

WEB PowerPoint WEB PowerPoint WEB

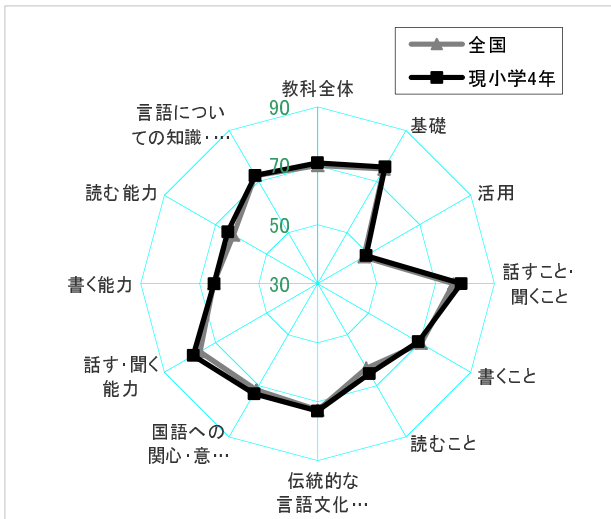
横断歩

自動的に漢字カードがめくられて、「読みの確認」ができる

パワーポイントなので、編集可能見せ方など自由自在!!

小学 4年 国語

1. 全体傾向

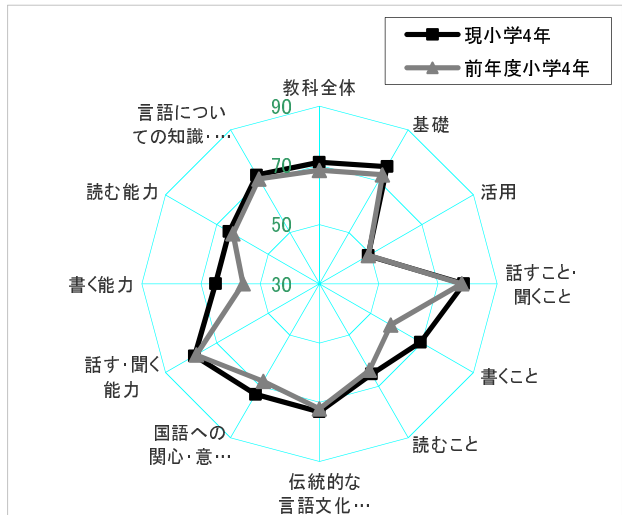
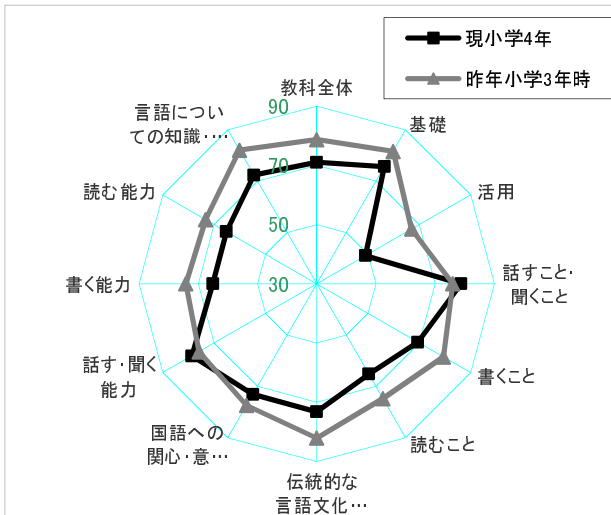


・概ね全国の平均正答率を上回る結果となっている。中でも、「話すこと・聞くこと」の領域で正答率が高く、話の中心に気をつけて聞くことができている。

・反面、国語辞典の使い方やローマ字の読み書きなどの「言語の学習」が全国の平均正答率を下回っている。特に、ローマ字を読む問題は、全国の平均正答率を、6.5ポイント下回っている。また、無回答の割合も、30%以上いることから、ローマ字学習の定着をはかる必要がある。

・記述問題への正答率が全体的に低い。また、無回答の割合も、10%以上あるため、指定された条件で、自分の考えを書くなど、書く力を育成していく必要がある。

2. 経年変化



・全体的に3年時を下回っている。特に、活用は18ポイント下回っているため、思考力・表現力の向上が課題である。

・「話すこと・聞くこと」は、約3ポイント上回っているが、それ以外の「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が大きく下回っている。

・前年度4年と比べると、全ての領域で、上回っている。特に「書くこと」の領域では、10ポイント以上、上回っていて、能力の向上がうかがえるが、全国と比べるとまだ低い傾向にある。

・国語への関心・意欲・態度が5ポイント向上しているため、今後も子どもたちの学習意欲が向上するような授業内容を工夫していく必要がある。

3. 強みと弱み

○互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合ったり、話の中心に気をつけて聞くことができている。

●課題としては、書く能力・基本的な言語事項の定着を図る必要がある。

(1) 記述式の無回答者を減らすために、書くための語彙を増やしてイメージをふくらませたり、目的や相手を意識して書いたりする必要がある。

(2) 言語事項の向上のため、ICTを活用し、漢字の書き取りやローマ字学習の定着を図る。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

言語事項の定着を図るための効果的な活動例

<目的をはっきりさせて書く>

何のために書くのか, 対象や目的を意識した上で書くことが, 文章力の向上につながります。例えば・・・

- 伝達するために書く・・・誰に対して, 何を伝えるかを明確に
- 報告するために書く・・・見学, 調査, 研究等を誰に知らせるために
- 説明するために書く・・・事実, 事象について誰に説明するために
- 感想や意見を述べるために書く・・・感じたことや考えを誰に伝えるために
- 創作するために書く・・・詩・童話・物語などを誰に向けて作るか

*教師の評価は, 目的に合った表現になっているかを評価していくことが大切。

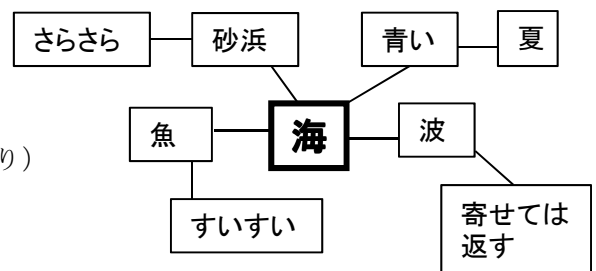


<書くために語彙を増やす>

○マッピングを使った発想や言葉の広げ方

※イメージを広げる視点

- ・季節 ・時間
- ・五感 (音・味・香り・見たもの・手触り)
- ・比喩 (～のような・～みたいな)
- ・擬態語 ・擬声語



参考資料：学びの突破口ガイド (小学校高学年版)

ICTを活用して, ローマ字学習を!

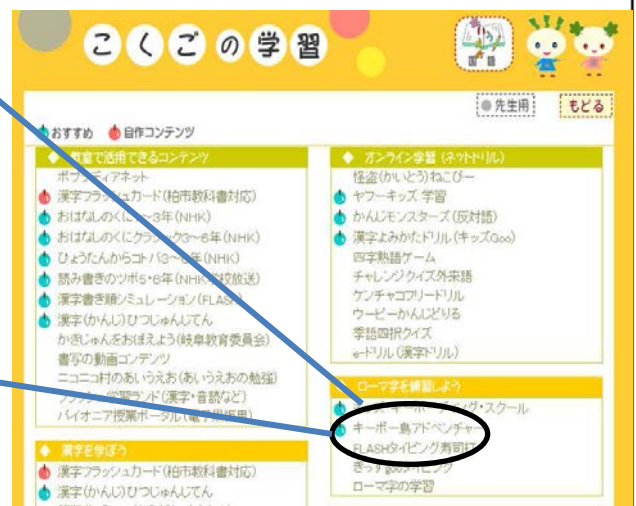
※インターネットのページには, 楽しいデジタルコンテンツがたくさんあります。子どもたちが短い時間に, 楽しみながらローマ字学習できます。

★キーボー島アドベンチャー

- ・キーボー島の島民とタイピング入力の勝負をして, はるか遠くのなぞの岩山をめざして冒険をします。
- ・IDとパスワードがあれば, 自宅のパソコンでも練習できます。

★FLASHタイピング寿司

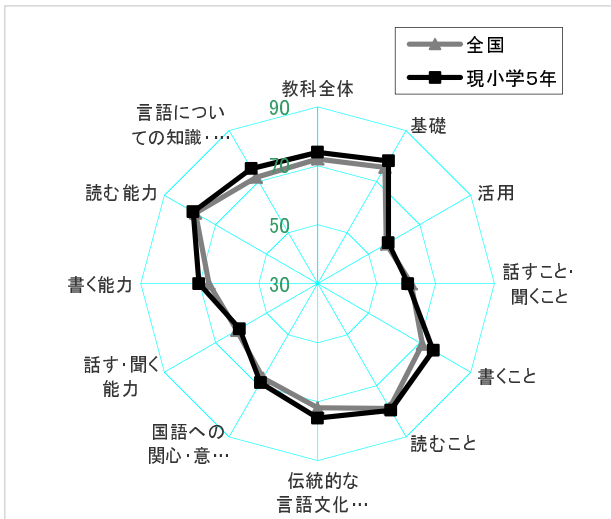
- ・お寿司が流れてしまう前に, 画面の文字を入力するタイピングソフトです。
- ・上位になると, ランキングに登録されます。



※まだまだたくさんのコンテンツがあります。是非, 活用してみてください。

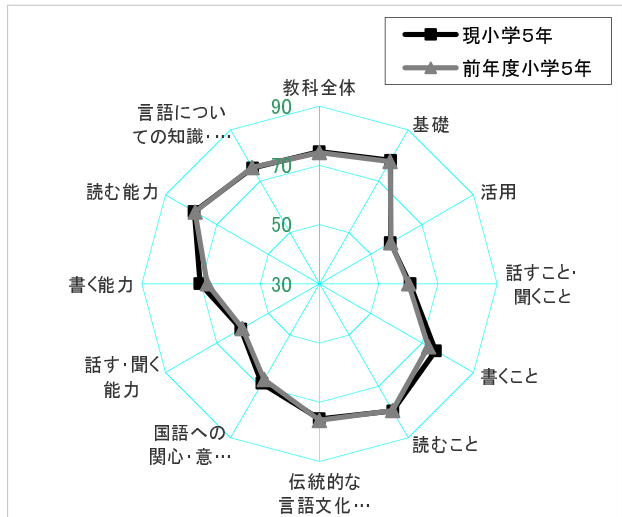
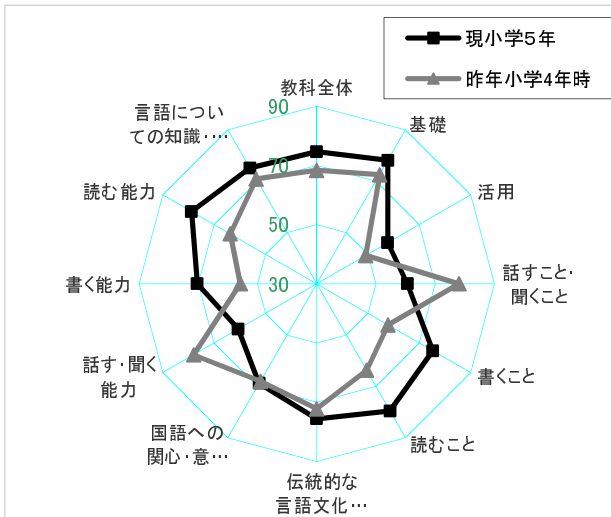
小学 5年 国語

1. 全体傾向



・基礎・応用ともに全国の平均正答率を上回る結果となっている。その中でも、「言語についての知識・理解・技能」の領域については、しっかりと定着している様子がうかがえる。
 ・反面、「話す・聞く能力」で、全国の平均正答率を下回っている。聞いたことをメモしながら、自分で必要な情報を整理し、話し手の意図や要点を的確につかむ力が不足していると考えられる。
 ・また、記述式の問題で、無回答の児童が10パーセント以上いるため、問題内容の主旨をとらえ、自分の考えを書く活動を多く取り入れる必要がある。

2. 経年変化



現5年は、4年時と比べると、全体的に国語の力が伸びているのがわかる。中でも、「書く能力」は、昨年・一昨年と全国の平均正答率を大きく下回っていたため、各学校での指導の成果があらわれていると考えられる。

反面、「話す・聞く能力」については、17ポイントダウンと大きく後退している。

基礎・活用ともに、前年度の5年生とほぼ同じ傾向を示している。「基礎」が全国正答率を上回っていることから、定着している基礎学力を活かし、いかに活用力を伸ばしていけるかが大きな課題である。意識的に言語活動の充実を図り、実践的な国語力を培うことが必要である。

3. 強みと弱み

○「言語についての知識・理解・技能」などの、基本的な事項は、定着している。

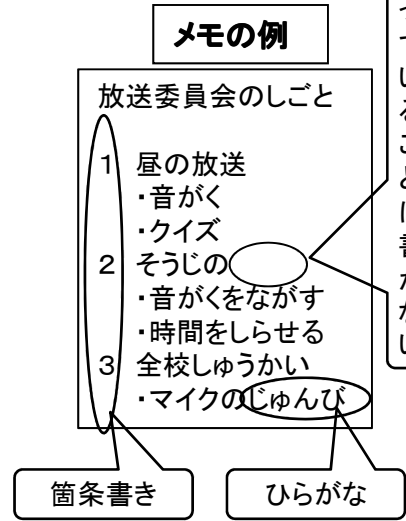
- 話し手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比較しながら考えをまとめていくことを苦手としている
- (1)「聞くこと」の能力を向上させるために、相手の話の主旨をつかむ必要がある。
- (2)「話すこと」の能力を向上させるために、日常的にスピーチを取り入れ、話し手のスキル向上を図る必要がある。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

メモの取りながら聞く力をつけるポイント

相手の話の主旨をつかむためには、メモを取ることが重要です。メモを取る際のポイントを紹介します。

- ①「ひらがな」の方が速くかける！
 - ・漢字を使っていると、メモをとるのに時間がかかってしまうような時は、ひらがなを使うようにするとよい。
- ②簡条書きで書く！
 - ・聞いたままを書くよりは、簡条書きで書いた方が速く書けるし、わかりやすい。
- ③知っていることは書かなくてよい！
 - ・聞いたこと全部書く必要はない。知っていることは書かなくてもよい。
- ④見出しをつけるとよい！
 - ・見出しをつけると、見直すときに、わかりやすい。
- ⑤聞いたこと（質問）もかいておくとよい！
 - ・質問とその回答を書き留めておくとよい。
- ⑥記号を上手に使う！
 - ・自分で記号の意味を決めて使う。文字より速く書ける。



話すこと・聞くこと

スピーチの工夫

～朝の会・帰りの会などのスピーチにひと工夫しよう～

<話し手のドリル> *スピーチのテーマをアレンジしよう

- ・今がんばっていること・最近嬉しかったこと・最近驚いたこと・思わず笑っちゃったこと
- ・家族の紹介・冬休みにやりたいこと・もしも10万円を1日で使うなら？
- ・願いが1つかなうなら・・・など

- レベル1 先生がテーマを1つ予告して、スピーチ（メモをもとに話す）
- レベル2 少し慣れてきたら3～4テーマの中から自分で選んで話してみよう。
- レベル3 もっと慣れてきたらスピーチメモなしに挑戦！
- レベル4 とっても慣れてきたらテーマを予告しないでさいころトーキング！！



<聞き手のドリル> *聞き手に聞く必要性をもたせて聞かせよう。

(例) 「穴のある一分間スピーチ」

話し手は一番話したいことを言わずにスピーチをします。スピーチ終了時に「何かご質問はありませんか」と問います。

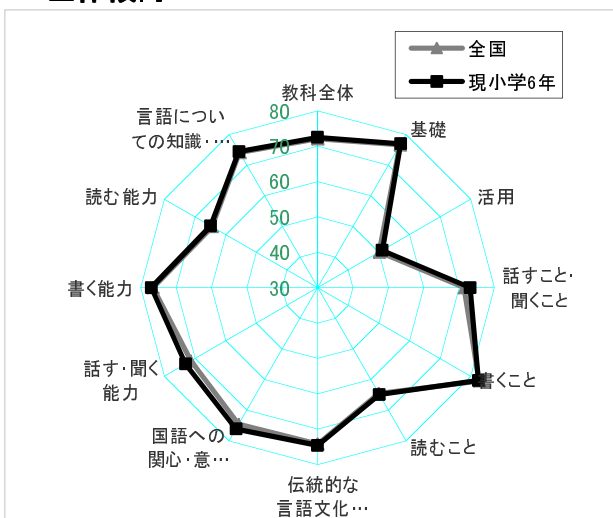
○一番話したいことを質問された場合は・・・「よくぞ聞いてくださいました・・・」と前置きをして一番話したい内容をスピーチします。

○一番話したい内容ではないことを質問された場合は・・・「予定にはございませんが」と前置きをしてスピーチします。

※コミュニケーションの基礎は一往復半のやりとりです。

小学 6年 国語

1. 全体傾向



全体的に見ると、全国平均と同等の結果である。

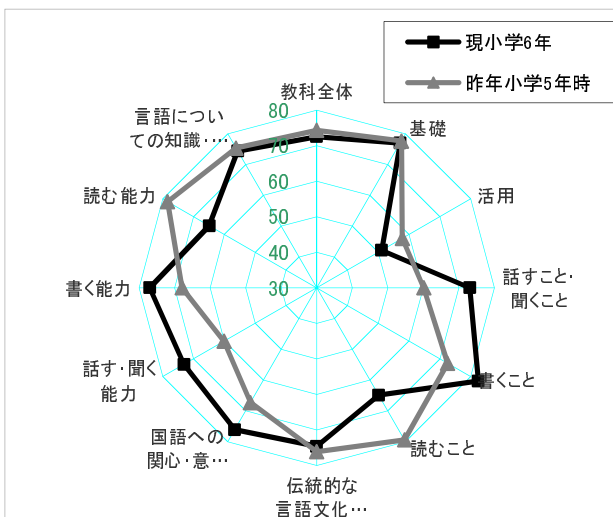
問題別に見ると、全国平均を3ポイント以上、上回ったのは、以下の設問である。

- ・小学5年で学習した漢字を書く
- ・説明的文章の段落のまとまりを考えながら読む

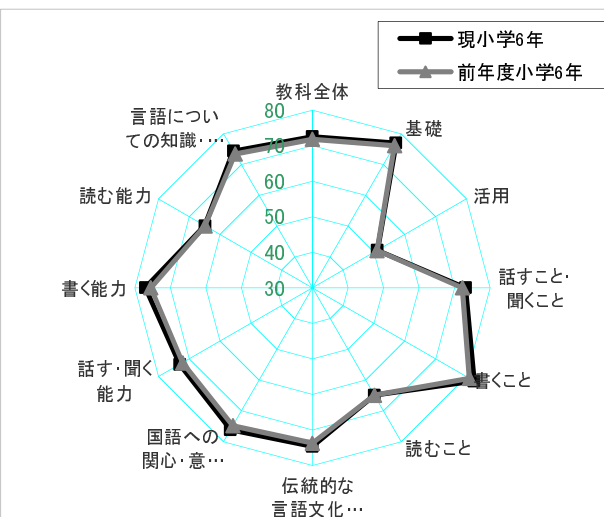
逆に、全国平均を3ポイント以上、下回ったのは、以下の設問である。

- ・文の構成(述語)を理解している
- ・説明的文章の内容を的確に押さえながら読む
- ・2段落構成で文章を書く

2. 経年変化



現小学6年は、昨年時と比較すると、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の正答率が良くなっている。反面、「読むこと」に関しては、5.5ポイント下回った。



全体的に見ると、昨年度の小学6年とほぼ同等の傾向が見られる。

問題別に見ても、同等の傾向である。文の構成(主語)の問題について、全国から見れば、下回っているものの、前年度の6年より3ポイント以上の理解を示した。

3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

○現小学6年は、全国平均と比較しても、昨年度の6年と比較しても、ほぼ同等の傾向となっており、どの領域もバランス良く力をつけているところが強みと言える。また、「国語への関心・意欲・態度」のポイントが上昇していることも強みと考えられる。

●昨年と比較すると、「読むこと」の低下が顕著である。従って、本学年の弱みを「読むこと」と考え、単元を貫く課題解決的な言語活動を設定した構想を持ち、授業改善を図りたい。そうすることによって児童の読書量が確保され、実生活に生きる力が養われると考える。

4. 授業改善の方向、効果的指導例

1. 単元名 ようこそファンタジーの世界へ きつねの窓
本の魅力を「読書座談会」で語り合おう 読書座談会をしよう
2. 付けたい力

- ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる力 (C読むこと エ)
- ・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりする力 (C読むこと オ)

3. 単元を貫く課題解決的な言語活動とその特徴

～安房直子作品を読み、グループで「読書座談会」をする～
本単元では、「グループで『読書座談会』をする」という言語活動を取り上げた。座談会では、グループで一つの作品をいくつかの視点で読み、自分が見つけた本の魅力を友だちと語り合うという活動を行う。座談会には、自分の思いを話すことで疑問を解決したり、解釈の違いを楽しんだりする良さがあるので、自分の考えを広げたり深めたりする力を付けるのに、適した言語活動である。

4. 単元の目標(以下の3つから1つを選んで重点的に行う。)

- ・「ファンタジー作品の魅力をみつけて読書座談会をする」という目的意識を持って、進んで複数の本を読む。(関心・意欲・態度)
- ・作品構成・登場人物の相互関係と心情の変化・場面の優れた叙述について、自分の考えを持ち、それを広げたり深めたりすることができる。(読むこと)
- ・言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ち、自分が受けた感覚を意識して作品を読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5. 単元の構想例

指導のポイント

第一次

学習の見通しを持つ。

- (1)グループでの読書座談会を行う事を知り、イメージをつかむ。
- (2)学習の計画を立てる。

手本を示す。

すでに学習したファンタジー作品(雪わたり)の「読書座談会(モデル)」を先生方が行い、それを録画して視聴させる。

ファンタジーのここにグッときた! 「読書座談会」で語り合おう!!

第二次

「きつねの窓」を読み、座談会をする。

- (1)魅力を語り合うための視点を決める。
 - ①作品の構成(入り口・出口)
 - ②登場人物の関係と心情の変化
 - ③表現の工夫
 - ④作者の伝えたいこと・題名の効果

「座談会っておもしろそう。」
「ほくにもできるかも。」と
思わせることが大切。

第三次

選んだ作品で準備をして、座談会をする。

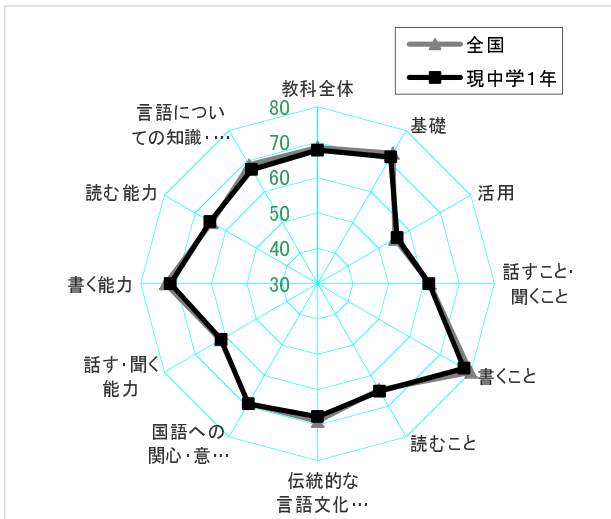
- (1)話し合いの視点に沿って、考えをまとめる。 *視点が増えてもよい。
例:疑問点・作風の共通点等
- (2)選んだ作品で座談会をする。
- (3)振り返りをする。
*自分についた力を考えさせる。

☆視点を明確にし、それに沿った自分の考えをメモした状態で行う。
☆代表による公開座談会を見せるのも、効果的。
☆座談会は、自分の考えの
変容が大切であることを事前に認識させること。
☆振り返りは、座談会の良さと、自分についた力の

並
行
読
書

中学 1年 国語

1. 全体傾向



全体的に見ると、全国平均と同等の結果である。

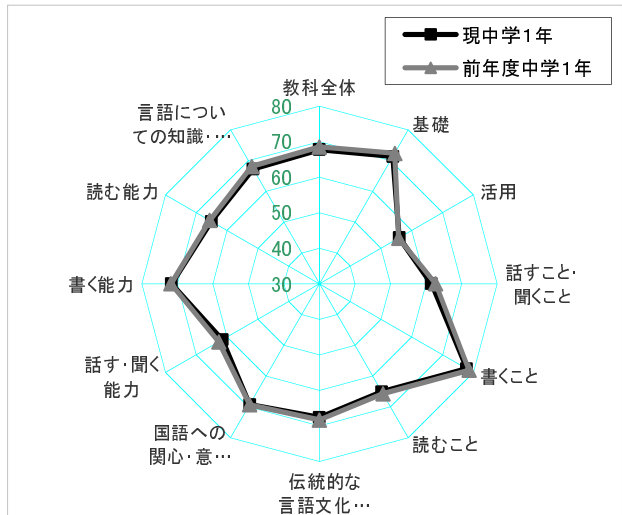
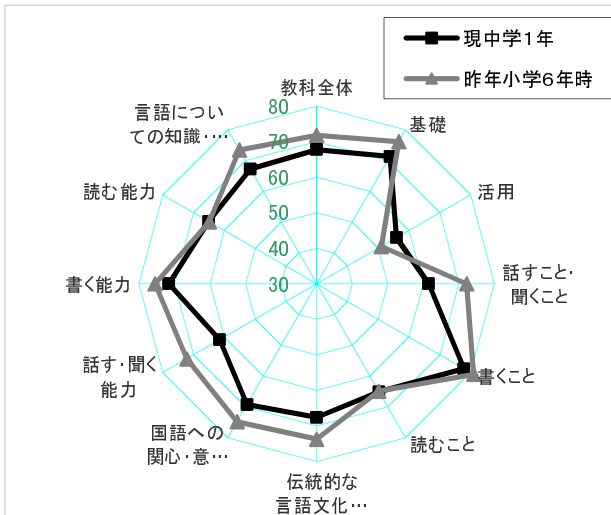
問題別に見ると、全国平均を3ポイント以上、上回ったのは、以下の設問である。

1. 話の内容を正確に聞き取る
2. 小学校で学習した漢字を書く
3. 話し合いの様子とメモを比較して相違点を見つける

逆に全国平均を3ポイント以上、下回ったのは、以下の設問である。

1. 小学校で学習した漢字を書く
2. 修飾語について理解している
3. 文章の構成や展開を正確にとらえる
4. 3段階で文章を書く

2. 経年変化



現中学1年は、小学6年時と比較すると、全体的に下回っている。中でも「話すこと・聞くこと」は、10ポイント下回っており、大きな課題と考えられる。

また、小学6年時には「活用」にやや課題が見られたが、今年度は、改善の傾向が見られる。

全体的に見ると、昨年度の中学1年とほぼ同等の傾向が見られる。

しかしながら問題別にみると、わずかなポイントではあるが、以下の点で全体的な正答率の低下がみられた。

- ・「話すこと・聞くこと」4問中3問
- ・「書くこと」5問中5問
- ・「読むこと」7問中4問

3. 強みと弱み(○強み ●弱み)

○現中学1年生は、全国平均や、昨年度の中学1年生と比較しても、際立って落ち込む項目が見られない。小学校の学びをバランスよく習得しているところが強みと言える。

●反面、昨年より「関心・意欲・態度」の低下が気になる。それに伴って、多くの項目が低下している。特に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が弱みとなって見えている。

従って、次の点に留意して授業を改善していくことが望ましいと考える。

(1) 学習の見通しと振り返りの場を設定することにより、意欲向上を図る。

(2) メモをとるなどの書く活動を意図的に取り入れた「話すこと・聞くこと」の授業改善

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

学習への関心・意欲を向上させるためには、「見通し」と「振り返り」の場を設定することが肝要である。

1. 「話すこと・聞くこと」の単元構想

(1) 単元の目標

目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして自分の考えをまとめようとする態度を育てる。

(2) 付けたい力

全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話す力。
(A話すこと・聞くこと イ)

(3) 課題解決的な言語活動とその特徴

中学校に進学するときに自分が抱いた不安と期待を思い出させ、後輩の不安感を取り除き、希望を持って進学できるようにするための、学校紹介スピーチを言語活動として設定する。
相手をはっきりしていること、事実と意見を区別して話を構成しやすいこと、相手の反応を見ながらスピーチすることができることなどから考えて、付けたい力にぴったりの言語活動と考える。

待ってるよ！〇〇中学校へ (6年生の期待感倍増プロジェクト)

(4) 学習の見通しと振り返り

生徒のゴール

- ☆生徒が常に頭に思い浮かべられるようなゴールを設定する。
- ☆付けたい力に迫れるような場の設定に留意する。

生徒の振り返り

- ☆相手の反応に対する自分の考えを書かせる。
- ☆この学習で、自分にどんな力がついたかを考えさせて記述させる。

(5) わかりやすく伝えるための工夫を取り入れて話す

- ①結論を先に述べる。
- ②具体例を出す。
- ③ナンバリングをして話す。
- ④フリップでキーワードを見せる。
- ⑤相手の反応が見られるような投げかけをする。

(6) メモをとりながら発表を聞く。

メモをとるときのポイント

- ①短い言葉で箇条書きにする。
- ②具体例を出す。
- ③具体的な数字
- ④フリップで見せられたキーワード

日常の指導で留意したいこと・・・教師が生徒のモデルになること

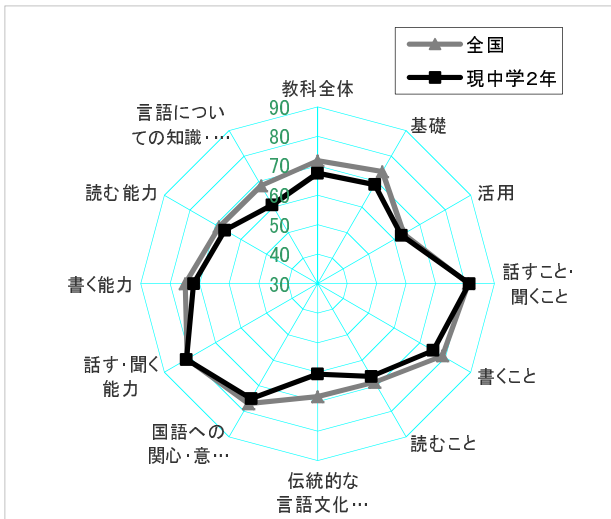
★先生の話・・・文を短く、簡潔に話す。⇒接続詞を使う話し方

★子どもが話したくなるような先生の反応

★話を聞く機会を逃さず、聞き方に付加をかける。

中学 2年 国語

1. 全体傾向



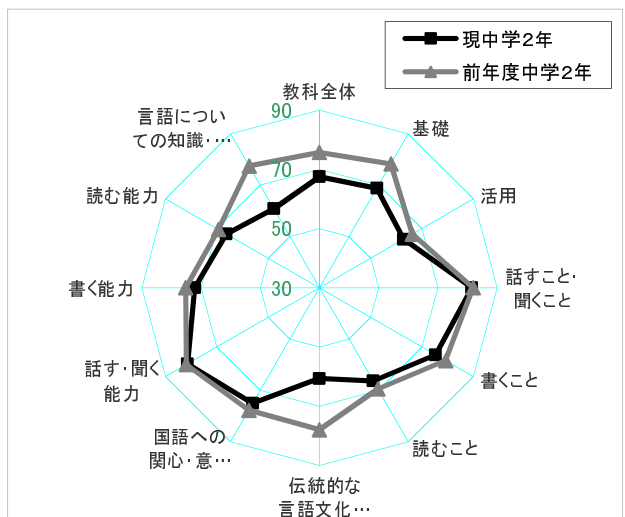
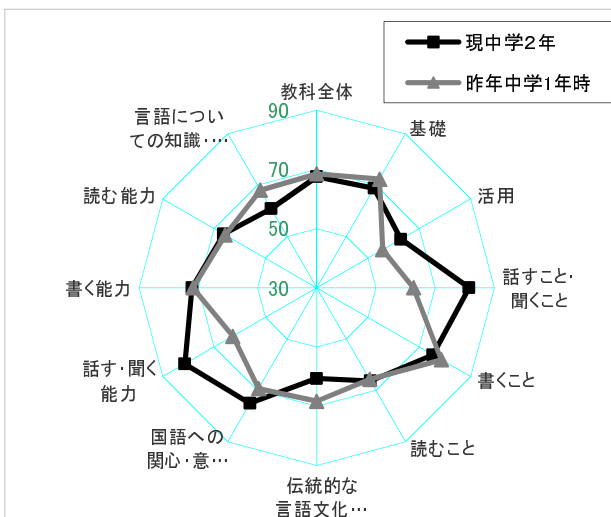
全体的に見ると、「話す・聞く」以外の項目が全国平均を下回っており、全国平均よりも若干小さな円となっている。中でも、「言語・言語文化」の正答率が約60%と低く、全国平均との開きも大きくなっている。

問題別に見ると、正答率が50%以下だったのは、以下の4問である。

- ①漢字の読み(履修)
- ②③漢字の書き(山が南北にツラなる, 畑をタガヤす)
- ④新聞記事の内容を読み取り, 「いつ」「どこで」「何が」「どうした」のかがわかるように書く。

新聞記事の問題は、回答はしたが条件を満たしていなかったというものが最も多く、約37%であった(無答は約18%)。よって、読み取った内容を的確に、簡潔に表現する力を高めていく必要があると考えられる。

2. 経年変化



現中学2年生は、1年次と比較すると、「話す・聞く」と「活用」が良くなっているが、「言語・言語文化」の正答率が低下している。「言語・言語文化」に関する設問で特に正答率が低かったのが、漢字の読み書きである。中でも、「履修」(読み)の正答率は、約7%と非常に低かった。

漢字の読み書きの力を高めるには、語彙力を高めることが必要不可欠である。そのためにも、他教科の「書く活動」と関連させる取り組みなどを積極的に行って行く必要があると考える。

現中学2年生は、前年度の2年生と比較すると、全項目下回っている。中でも、「言語・言語文化」は約17ポイント下回っており、大きな課題と考えられる。

昨年度は、ほとんどの項目が正答率70%以上だったが、今年度は教科全体の正答率が60%台であり、「言語・言語文化」に至っては正答率約60%である。

語彙を増やすための取り組みと、獲得した語彙を活用する取り組みが求められる。

3. 強み(○)と弱み(●)

- 「話すこと・聞くこと」の正答率が80%を超えている。
- 「言語事項・言語文化」を筆頭に、全国平均や前年度の2年生を下回っている項目が多く、課題が多い。

「1」「2」で述べてきたことを総合的に考えると、

- ・語彙を獲得する場面
- ・学習した語彙を活用する場面
- ・読み取った内容を、的確に、簡潔に表現する場面

に力不足が見られる。このような力を伸ばすためには、国語科の授業のみならず、他教科における記述・論述の場面においても、的確に、簡潔に表現する取り組みを行って行く必要がある。

教科の枠をこえて表現する力を育めるよう、カリキュラムや授業を工夫しなくてはならないと考える。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

<事例1>

単元名 : 各教科の『これが大事！学習語句ベスト30！！』を作ろう
 単元の目標 : 教科書で使用されている語句に関心を持ち, その語句を活用できる。
 主な学習活動 : 第1時 … 常用漢字とは何か確認する。
 第2時 … 現在使用している教科書をグループで分担し, 特に重要だと思う語句を30個選ぶ。
 第3・4時 … 選んだ語句がどのように使われているかを調べ, 学習語句集を作成し, 紹介し合う。
 学習を振り返り, これからの漢字の習得, 使用についての自分の考えを書く。

留意点 : 漢字の読み書きの習得のためには, 繰り返しの学習が必要であるが, それだけでは十分ではない。生徒が漢字に興味を持つとともに, 漢字を使用する文化について考えさせることも大切である。
 そこで, まず「常用漢字表」について生徒に理解させる。常用漢字は社会生活における漢字使用の目安である。しかし, 「常用漢字表」の存在を知らない生徒も多いだろう。生徒が常用漢字についての知識を持つことは, 漢字を学習することの意義・目的を認識する上で重要である(ワークシート参照)。
 なお, 学習語句としては以下のようなものが挙げられるであろう。
 【理科】質量・維持・回路・磁界・粒子・酸化etc
 【家庭科】郷土・摂取・保存・伝承・褐変・裁断etc

ワークシートの例

次に示しているのは, 「常用漢字表」の前書きです。

- 1 この表は, 法令, 公用文書, 新聞, 雑誌, 放送など, 一般の社会生活において, 現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものである。
- 2 この表は, 科学, 技術, 芸術, その他の各種専門分野や個人々の標記にまで及ぼそうとするものではない。
- 3 この表は, 固有名詞を対象とするものではない。
- 4 この表は, 過去の著作や文書における漢字使用を否定するものではない。
- 5 この表の運用に当たっては, 個々の事情に応じて適切な考慮を加える余地のあるものである。

これを読んで, 漢字について考えたことを書いてみよう。

<事例2>

単元名 : 『走れメロス』の批評文を書こう
 単元の目標 : 『走れメロス』を読んで, 細部の叙述や物語全体の構造について批評することができる。
 主な学習活動 : 第1時 … 『走れメロス』を批評するという目的意識, 学習の見通しを持つ。使われている語句の効果など, 表現上の工夫をとらえる。
 第2時 … 話の展開の仕方, 場面や登場人物の設定の仕方を確認し, 内容が理解しやすかった表現(場面)や理解しにくかった表現(場面)を取り出す。
 第3～5時… 前時で取り出した表現(場面)をもとに, 細部の叙述や作品全体の構造について批評する文章を書く。
 それぞれの批評をグループで交流する。
 『走れメロス』に対する自分のものの見方や考え方を振り返る。

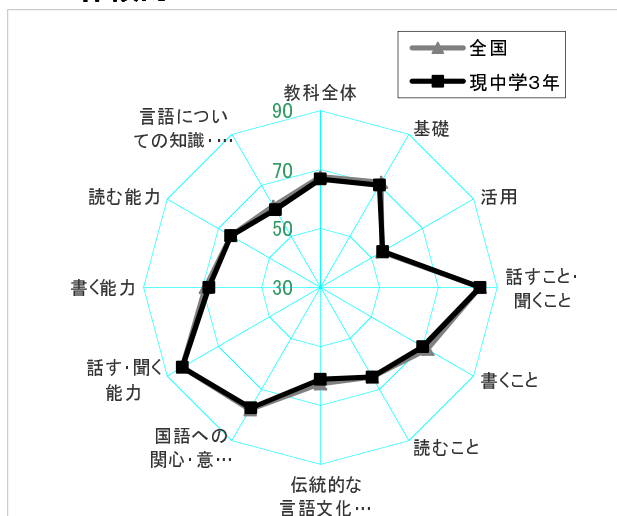
留意点 : 以下に示すような感想や批評に関する「語彙の表」を作成し, 活用する。

	心に響く る夢中に 面白 嬉し 楽し 素敵 大切 同感 共感 好き	是	充実 具体的 効果的 独創的 見事か 豊か 明確 大事 素晴らしい	
感想 ←	える反感を覚 浅はか 滑稽 おろか 悲しい がっかり 残念 不思議 反対 異なる 嫌	非	矛盾する 抽象的 おかしい 乏しい 疑問	→ 批評

参考資料 : 『言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】』

中学 3年 国語

1. 全体傾向



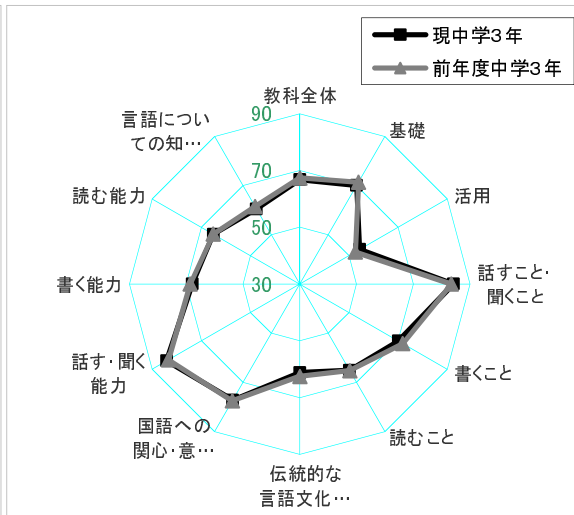
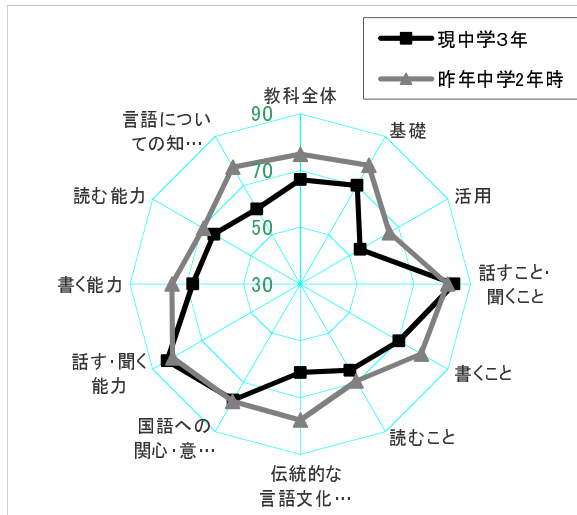
全体的に見ると、おおむね全国平均と同様である。項目ごとに見ると、「活用」のみ正答率が50%台となっており、昨年に引き続き、活用力を高める取り組みが求められる。

問題別に見ると、正答率が50%以下だったのは、以下の6問である。

- ①漢字読み(擁護)、書き(入場をキセイする)
- ②同音異義語の理解(文中から間違いを見つけ直す。感心→関心)
- ④適切な位置に文を挿入する問題
- ⑤文中の語句と同じような意味で用いられている例を選ぶ問題
- ⑥基本的な手紙の書き方に関する問題

手紙の問題に関しては、本文に入る際の手紙の書き方(さて)を理解していない生徒が約35%と非常に多かった。生徒たちが社会に出る前に、手紙や葉書、年賀状などの基本的な書き方についてはおさえさせる必要があると思われる。

2. 経年変化



昨年度と比較すると、「話す・聞く」以外の項目が下回っており、全体的に小さな円になっている。時に落ち込みが大きかったのが「言語・言語文化」に関する項目である。漢字の読み書きに加え、文法・語句に関する問題にも課題がある。

現2年生も同様の課題を抱えている。学校全体で、組織的に語彙を増やす取り組みを行って行く必要がある。

昨年度の3年生との比較においては、ほぼ同様の結果となっている。

「1. 全体傾向」で記した問題(6問)の大半が、2年連続で正答率が低い。このことは、課題が一朝一夕には改善されないことを表していると思われる。

自校の課題が明らかになった時に、学校体制で継続的な取り組みを行っていくことが肝要である。

3. 強み(○)と弱み(●)

○ 全国平均や昨年度の3年生と比較すると、落ち込んでいる項目がない。顕著な弱みがないところが強みと言えるだろう。

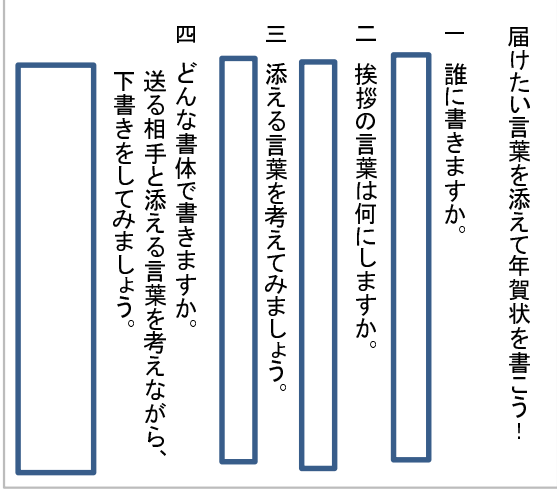
● 2年次と比較すると、点数的には下回っている項目が多い。

「関心・意欲・態度」が落ち込んでいるわけではないので、授業の中で、「学習の見通しを持たせること」、「自己の成長や課題を振り返らせること」によって、主体的に学ぶ習慣をつけさせたい。

なお、今後の課題は、①組織的に語彙力向上を図ること ②手紙や葉書、年賀状等の基本的な書き方を身につけさせること ③基本的な文章構造・文章表現を理解・習得させることの3点と言えるだろう。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

<事例1>

<p>単元名 : 届けたい言葉を添えて「年賀状」を書こう</p> <p>単元の目標 : 送る相手に応じて届けたい言葉を考え, その言葉にふさわしい書体を選んで年賀状を書くことができる。</p> <p>主な学習活動 : 第1時 … 学習の見通しを持ち, 送る相手に応じて, 「挨拶の言葉」と「届けたい言葉」を考え, 書写の学習を生かして, それらの言葉にふさわしい書体を選んで下書きを書く。 第2時 … 下書きを互いに読み合い, 交流する。 年賀状を清書する。 学習活動を振り返る。 * 投函する</p> <p>留意点 : 年賀状は中学生にとって身近な手紙の形式の一つである。日頃はあまり手紙を出さない相手であっても, 年の初めという機会をとらえて互いの思いや近況を伝え合うことができる。また, その形式が一般的に「挨拶の言葉」とそれに添える文面という簡潔なものであり, 比較的短い時間で書けることも特徴である。 本単元では, このような年賀状の特徴を生かし, 次のようなことを思考・判断しながら表現させたい。</p> <p>①誰に書くか? → 「祖父母」「友達」「先生」…</p> <p>②挨拶の言葉は? → 「あけましておめでとうございます」「HAPPY NEW YEAR」…</p> <p>③届けたい言葉は? * 具体的に書く。 → 「元気でね。」を「風邪気味だと聞きましたが, 大事にしてください。」など</p> <p>④書体は? → 読みやすいように「楷書」, 柔らかい感じにしたいから「行書」など</p> <p>* 日本郵便株式会社発行の『手紙の書き方』を活用するのも有効です。一人2枚葉書をもらえ, 実際に手紙を出す活動までできます。近くの郵便局で配付しています。</p>	<p>ワークシートの例</p> 
--	---

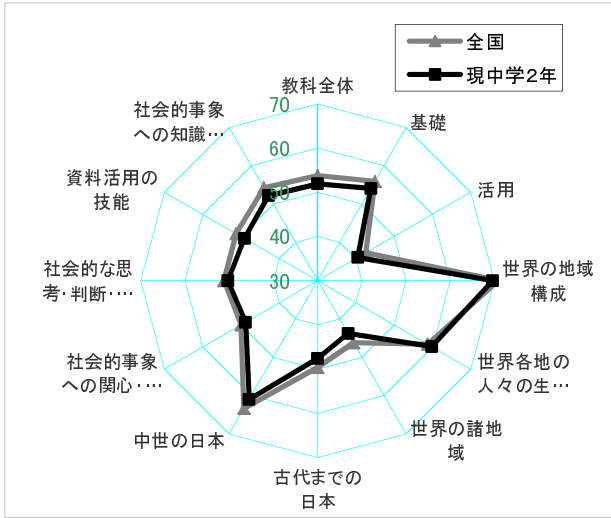
<事例2>

<p>単元名 : 「部活動新聞」を作ろう</p> <p>単元の目標 : 新聞の記事やコラムなどの表現の違いを理解し, 複数の記事を組み合わせて部活動新聞を作成することができる。</p> <p>主な学習活動 : 第1・2時 … 既習事項を思い出ししながら, 新聞社による「トップ記事」「社説」(論説)「コラム」等の表現の違いをまとめる。 第3時 … 部活動について, 伝えたい内容をカードにまとめる。 記事にする内容の特徴を考えながら, 紙面の割り付けを決める。 第4・5時 … 「部活動新聞」を作成する。 第6・7時 … 「部活動新聞」をグループで読み合い, 一般紙と比較しながらそれぞれの記事として適切かどうかアドバイスし合う。 アドバイスを踏まえて清書する。</p> <p>留意点 : 学習したことをもとに, どこに何を載せるのか考えさせる。 「トップ記事」… その日の大きな出来事などが取り上げられる。 日時や場所, 出来事の内容などが客観的に書かれる。 「社説」(論説)… 新聞社(本単元の場合は作者)の立場, 主張が書かれる。 「コラム」… 書き手の意見や思いが書かれる。 文学的な文章に見られる表現技法が用いられることも多い。 新聞を作る活動の中には, それぞれの記事の目的が明らかでないものも見られる。目的に応じて文章の形態を選んで書くことを, 国語科でしっかりと指導したい。また, 新聞を定期刊行物として, 継続的に「言葉の力」を育てていきたい。</p>	
---	--

参考資料 : 『言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】』

中学 2年 社会

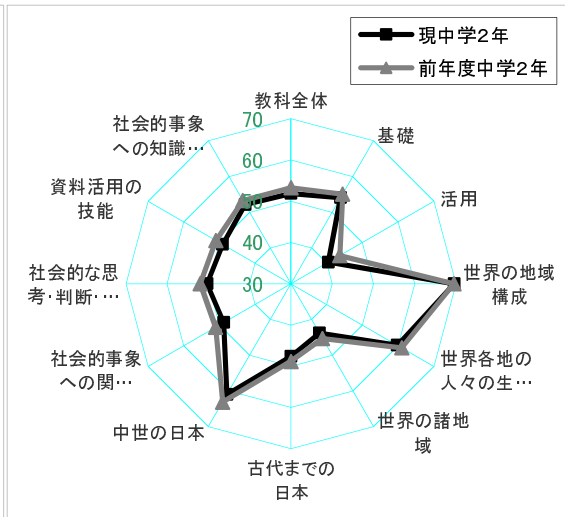
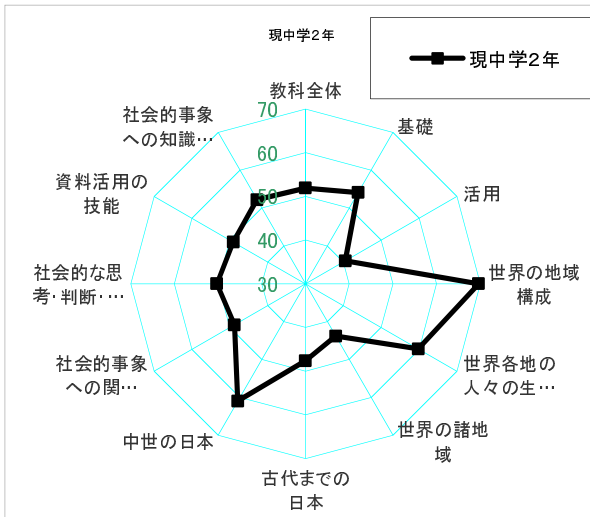
1. 全体傾向



コメント

- ・2年生社会を見ると、基礎・活用ともに全国を若干下回るものの、ほぼ同程度と見ることができる。
- ・活用の問題に課題があるのは全国的な傾向と言える。
- ・社会的な事象に関する考察や、現象の理由等、文章を書く機会を増やすことが必要である。
- ・そのためには、語句を記号として覚えるのではなく、概念化しなければならない。
- ・語句を概念化するためには、読書量を増やすことや、発表の機会を増やすなど、言語活動の充実が必要である。

2. 経年変化



コメント

- ・中1時のデータが無いので、経年変化をみることはできない。
- ・小学校から、読書活動を増やすことで、語彙が増え、表現力は自然と身につくはずである。

コメント

- ・昨年度の2年生と比較しても、ほぼ同様の傾向であると言える。

3. 強みと弱み

- 地理では、記述問題のうち写真から「伝統的な家のつくり」を読み取る問題や資料から「武士の館の特徴」をとらえる問題については、比較的高い正答率であった。
- 一方、同じ記述問題でも「偏西風」や「多国籍企業」などのように短答の問題では、誤字が目立った。
- 高緯度でありながら温暖な気候であることの説明を、偏西風と暖流の北大西洋海流との関係性から説明できるようにしたい。
- 歴史については、「桓武天皇の政治」や文化史の資料問題などで、時代区分をしっかりと把握していない為に、正答率が下がっていることが予想できる。
- 「平安時代の税制と戸籍」に関する問題では、複数の資料から事象を読み取る必要があり、正答率が最も低かった。複数の資料の比較・考察についての演習が必要であると思われる。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

基礎的・基本的な知識, 概念や技能を確実に習得させるためには, 繰り返して学習することが必要である。単に用語を覚えるだけでなく, その概念を確実に理解し, 書くことができなければ, それを活用して論理的な文章を組み立てることは不可能である。生徒が語句の概念を習得するうえで, ノートをしっかりと書くことは重要である。系統的, 構造的な板書計画とノート指導の見直しを推進したい。

また, 読解力を問われる記述式問題に対応するためには, 日ごろから, 書くことに慣れていなければならない。単元ごとに, 学習内容を文章でまとめたり, テーマをもとにグループで話し合うなど, 課題を継続し, 言語活動を充実させ, 思考力・判断力・表現力を身につけることが必要である。

語彙や様々な文章表現を体得するためには読書量を増やすことが近道である。図書館での調べ学習も計画的に実施したい。「活用」に関する力を向上させるために, 単元で身に付けさせたい力, つまり単元を貫く課題を明確にした上で, 効果的な言語活動を計画的に位置付けるなど, 指導の改善を一層進めていく必要がある。

【キーワードやカードの利用】 ⇒ 時代ごとに人物や出来事をまとめ, 並び変える。

小学校の学習を踏まえ, 人物カードを年表に貼り, 時代の流れや特徴をつかむ。

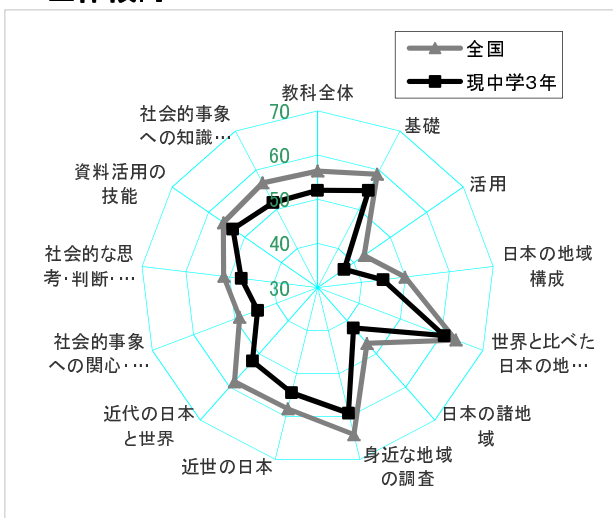


それぞれの文化について, キーワードを集めて表にまとめる。

文化	時代	作品や建物	人物
天平	奈良	東大寺正倉院	聖武天皇
国風	平安	寝殿造, 平等院	紫式部, 清少納言
鎌倉	鎌倉	東大寺南大門	運慶
室町	室町	金閣, 銀閣	雪舟
桃山	安土・桃山 ・江戸前期	姫路城	狩野永徳
元禄	江戸	俳諧	松尾芭蕉
化政	江戸	浮世絵	葛飾北斎

中学 3年 社会

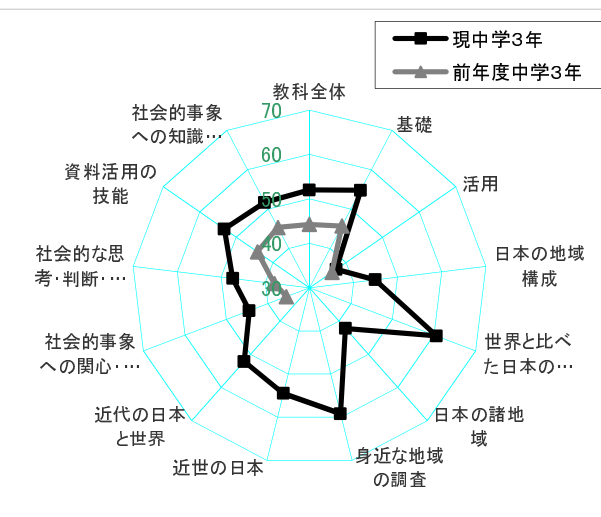
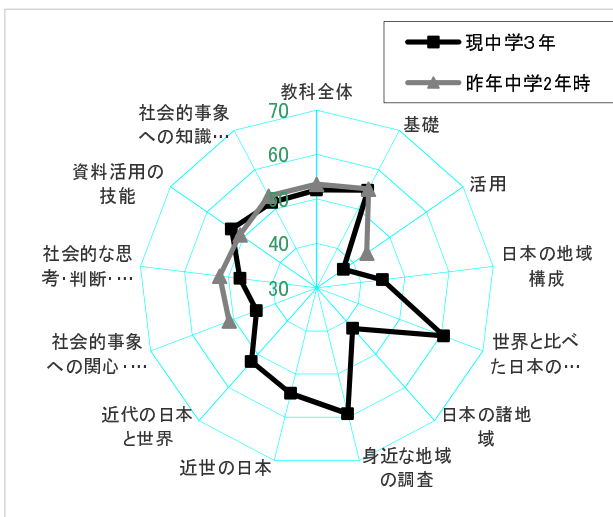
1. 全体傾向



コメント

- ・3年生社会を見ると、基礎・活用ともに全国を若干下回り、各領域でも、全国を下回っている。
- ・活用の問題に課題があるのは全国的な傾向と言える。
- ・領域では「日本の地域構成」「日本の諸地域」が大きく落ち込んでいる。
- ・「日本の領域」や「47都道府県」「地方構成」は知識として確実に定着させるべき項目である。

2. 経年変化



コメント

昨年と比較すると、資料活用の技能は若干上昇したものの、社会的な思考・判断・表現、社会事象への関心・意欲の観点が大きく落ち込んでいる。英語・数学に比較して、どうしても後回しにされてしまう傾向と、テスト直前の学習しか行われない傾向が予想できる。

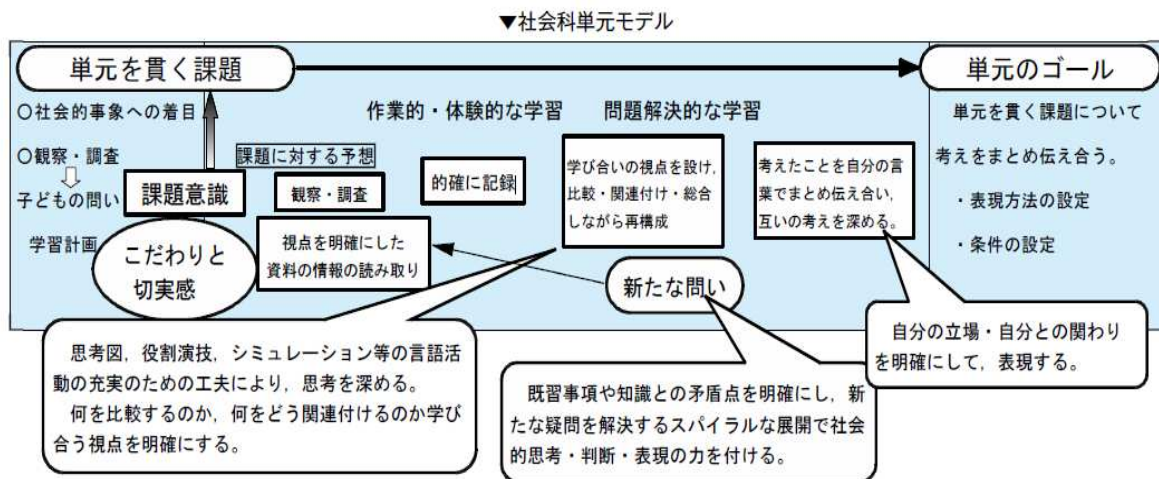
コメント

昨年度の3年生との比較すると、活用が大きく落ち込んでいるところと、4つの観点では社会的事象への関心・意欲・態度が落ちている部分が傾向として読み取れる。

3. 強みと弱み

- どの領域も、全国平均と同等レベルで、大きな落ち込みが無いことはある意味で強みと言える。
- 資料活用の問題は全国平均を上回っている。
- 日本の領域と日本の地域区分、日本の工業地域など、知識の定着が図られていない。この部分は理解の定着を確実にする必要がある。
- 複数の資料を読み取る、あるいは比較するなど、思考・判断・表現の問題に落ち込みが見られる。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例



基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させるためには、繰り返して学習することが必要であるが、単に用語を覚えるだけでなく、その概念を確実に理解し、書くことができなければ、それを活用して論理的に考えを組み立てることは不可能である。

生徒が語句の概念を習得するうえで、ノートをしっかり書くことは重要である。系統的、構造的な板書計画とノート指導の見直しを推進したい。

また、読解力を問われる記述式問題に対応するためには、日ごろから、書くことに慣れていなければならない。単元ごとに、学習内容を文章でまとめたり、テーマをもとにグループで話し合うなど課題を継続し、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を身につけることが必要である。

語彙や様々な文章表現を体得するためには読書量を増やすことが近道である。図書館での調べ学習も計画的に実施したい。「活用」に関する力を向上させるために、単元で身に付けさせたい力、つまり単元を貫く課題を明確にした上で、効果的な言語活動を計画的に位置付けるなど、指導の改善を一層進めていく必要がある。

【スモールステップを踏む記述】

2つの出来事について、その前後関係を、自分の言葉を用いて説明する。

☆ 次の出来事はどちらが先？その理由を自分の言葉で書きなさい。

日米和親条約とアヘン戦争はどちらが先？

- ・ アヘン戦争で中国が敗れたため、日本は、米国を恐れて日米和親条約を結んだ。
- ・ アヘン戦争で中国が開国し、さらに鎖国中の日本にも開国を迫ってきて日米和親条約を結んだ。

薩英戦争と生麦事件はどちらが先？

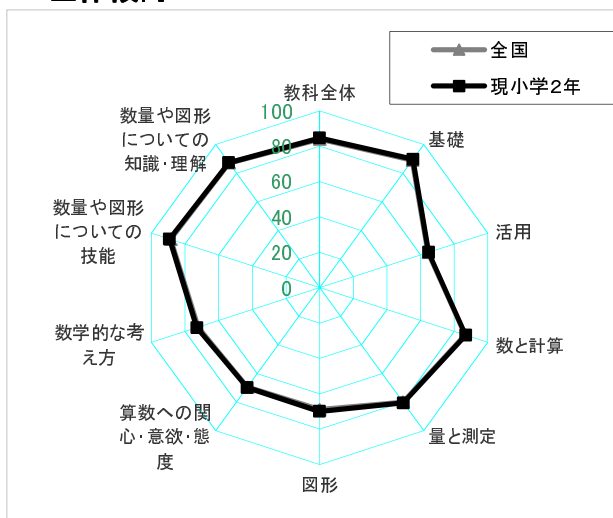
- ・ 藩主の父の行列が神奈川の生麦にさしかかった時、イギリス人が横切り殺されたのが生麦事件、その報復として起きたのが薩英戦争。

五・一五事件と満州事変はどちらが先？

- ・ 満州事変の拡大に消極的であった犬養首相が五・一五事件で暗殺された。

小学 2年 算数

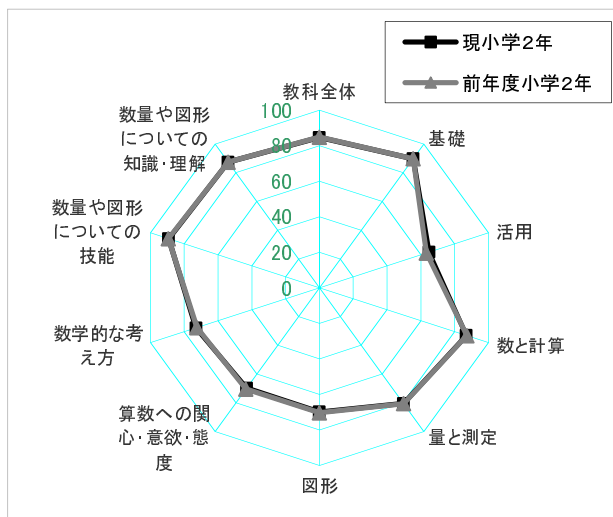
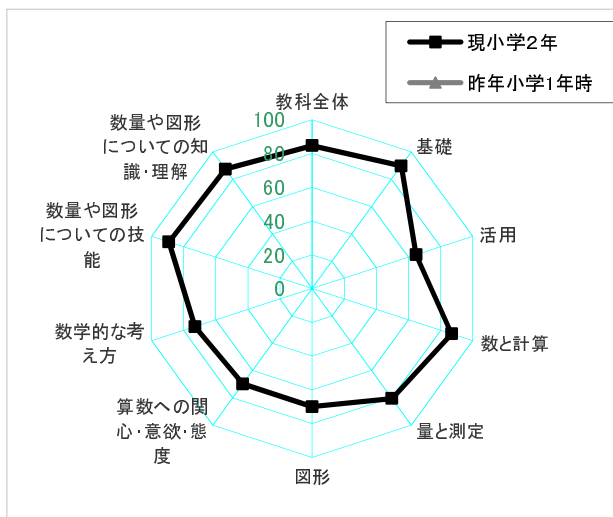
1. 全体傾向



コメント

・全ての観点において、僅かではあるが全国平均を上回っている。学力がバランスよく身についている。
 ・「120までのかず」、「3つのかずのけいさん」、「ながさ」など、基礎の定着を問う問題の正答率が特に高い。十分に習熟していると言える。
 ・「かたち」や「とけい」の問題は、全国と同様に正答率が低い。立体の中の平面を見分ける力や、アナログ時計を読む力、時間の流れの中で問題を考える力などに課題がある。

2. 経年変化



コメント

・第1学年では柏市学力・学習状況調査を実施していない。

コメント

・ほとんどの項目が昨年度の2年生を上回っている。それは、全国平均も同様であるため、昨年度よりも今年度の問題の方が難易度が低かったと捉えることもできる。しかしながら、基礎的問題だけでなく、活用の問題の正答率も昨年度を大きく上回っていることは、特筆すべきことである。

3. 強み(○)と弱み(●)

○「数と計算」、「量と測定」領域の基礎的学力が十分に習得されているため、活用の問題を読み取り、解決していく力が、ある程度身についている。

○「算数への関心・意欲・態度」が高く、特に基礎的問題には、意欲的に取り組むことができる。

●課題がある問題を見ると、次の3点の対策が必要と考えられる。

- ・立体を用いた算数的活動を充実させること。
- ・時計の見方、時間の流れなど、日常生活においても確かめる機会を多くする。
- ・様々な情報から「間違い」を見分ける学習にも、数多く取り組む。

4. 授業改善の方向，効果的指導例

(1) 授業改善の方向

算数の学習の中に，体験活動を多く取り入れたり，学習内容と日常生活を関連づけたりすることが大切です。また，日常的に「順序よく説明する言葉」などを意識した発表を習慣づけていくことで，論理的な思考が育ちます。

(2) 効果的な指導例

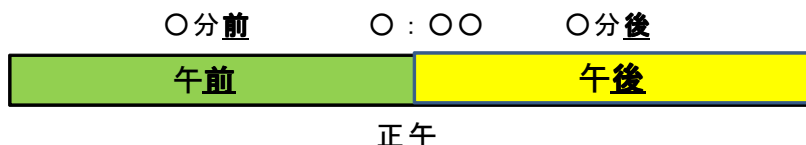
ここでつまずく！

- 〇分前，〇分後の意味がわからない。
- 長針が文字盤の「12」を越えたり，戻ったりするとわからない。



☆ 指導上の留意点 ☆

- ①日常生活の中で，時刻と時間，〇分前，〇分後を常に問いかける。
- ②模型時計の針を実際に動かすことで，時間の経過を視覚的に捉えさせる。
- ③針の動きと数直線上の時間の動きを一致させながら，〇分後と〇分前を捉えさせる。特に，時計の「12」を越えたり戻ったりする動きは，繰り返し確認させる。



☆ 指導・学習活動例 ☆

- ①「前」と「後」を捉えさせる。
 - a 「給食の前に手を洗いましょう。」，「給食の後に休み時間」といったように，時間の「前」と「後」の意味を捉えさせる。
 - b 「正午」を起点とし，〇分後と言われたら後に進ませ，〇分前と言われたら前に戻らせる。
 - c 「〇分前」と言われたら『前に戻って』，「〇分後」と言われたら『後(ご)は進め』と繰り返し唱えさせ，習慣付けの中で時間の動きの概念を定着させる。
- ②模型時計や数直線を用いた時間の計算
 - a 〇時から「1時間後・1時間前」，「30分後・30分前」，「15分後・15分前」で，長針と短針の動きを捉えさせる。
 - b 〇時30分から，〇時〇分からも，同様に行う。

形式的な「いいです」や「同じです」ということを続けていると，児童は考えなくなってしまいます。

身につけさせたい「話し合いの言葉」の例 その1

- ・ 〇時の30分後は〇時〇分です。なぜかというと，長い針が，「12」のところから30分たつと「6」まで進むからです。
- ・ A君に付け足します。時計は，「12」のところから「6」のところまで，5分，10分，15分，20分，25分，30分，と進みます。
- ・ どちらも「後は進め」だから，良いと思います。
- ・ 時間の表で言えば，〇時の30分後はここになります。ここも〇時〇分です。

～順序よく説明する言葉～

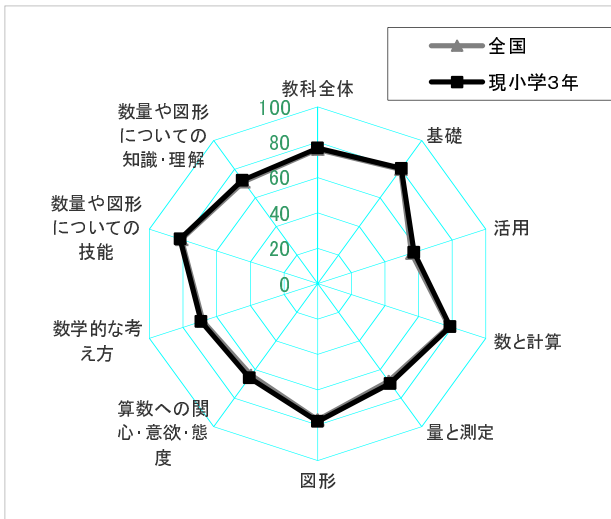
「はじめに…，次に…，それから…，最後に…。」
 「1番目に…，2番目に…，3番目に…，最後に…。」



☆参考資料 ☆
 千葉県教育委員会
 「学びの突破口ガイド」より

小学 3年 算数

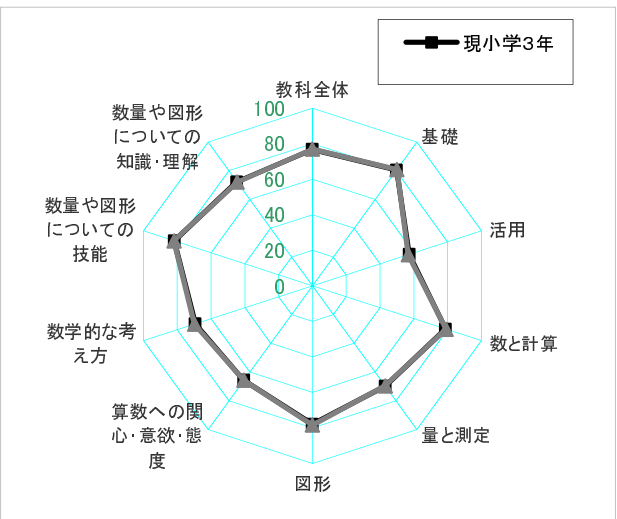
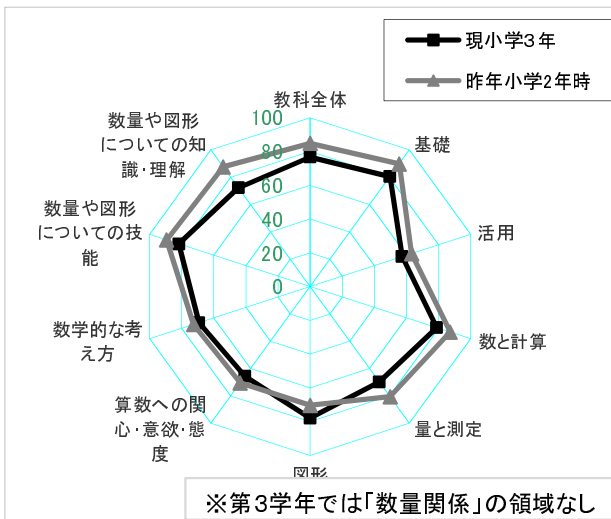
1. 全体傾向



コメント

- ・観点別で見ると、僅かではあるがいずれも全国平均を上回っており、平均的な学力を有していると考えられる。
- ・「数量や図形についての知識・理解」、「数量や図形についての技能」の定着がよく、十分習熟されていると考えられる。
- ・「量と測定」領域に課題があり、「時刻と時間」、「はこの形」、「分数」の問題への対応が不十分と言える。

2. 経年変化



コメント

- ・昨年度と比べると、全体的に正答率が3ポイント近く下がっているが、昨年度と今年度の全国平均を比較しても同様な状態であるため、学年があがったことによる正答率の低下と同等であり、問題があるとは言えない。
- ・その中で、「図形」は前年度を上回っており、指導の成果が表れている。

コメント

- ・昨年度の小学3年生と比べると、ほとんどの項目において同程度の数値であり、「活用」が低くなっている。
- ・「基礎」と「数量や図形についての技能」は、2年連続で90%の正答率であり、指導の成果が表れている。

3. 強み(○)と弱み(●)

- 児童の平均正答率が76.7%であり、学習内容についてはおおむね身に付いていると考えられる。
- たし算やひき算などの基礎的計算技能が高く、数の仕組みや計算方法を十分理解している。
- 「算数への関心・意欲・態度」が高く、これまでの算数に対する知識や理解も定着している。
- 課題のある問題を見ると、次の3点の対策が考えられる。
 - ・時刻と時刻の間の時間の読み取りについて、様々な場面で繰り返し指導していく。
 - ・分数の意味など、具体的な操作活動を多く取り入れ、具体的な操作から概念を獲得させていく。
 - ・答えの理由を明確に説明することができるように、言語活動の充実を図る。

4. 授業改善の方向，効果的指導例

(1) 授業改善の方向

低・中学年の算数では，学習の中に具体物の操作を多く取り入れたり，量感を視覚的につかませることが大切です。つかんだ量感は，絵や図，数直線，数式などに関連づけて考えさせたり，発表させたりすることで，さらに理解が深まります。

(2) 効果的な指導例

ここでつまずく！

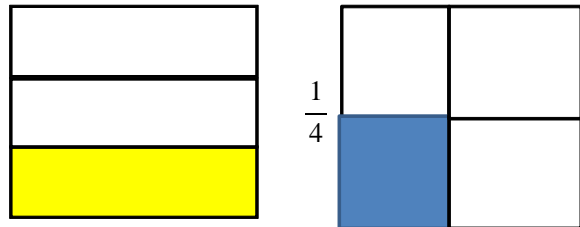
- 単位分数のいくつ分で表すことができない。
- 分数について意味が理解できない。

☆ 指導上の留意点 ☆

- ① 基準が分母で変わることを確認し，量感を視覚的に押さえる。
- ② 単位分数の意味を理解させ，そのことから分数の大きさ比べの方法を考えさせる。
- ③ 数直線をもとに分数を表わすと，分数の大きさが分かりやすいことに気付かせる。

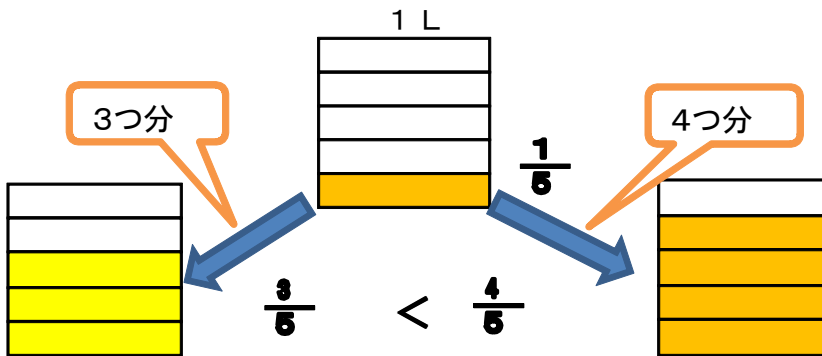
☆ 指導・学習活動例 ☆

- ① 折り紙を折って，単位分数を作る作業を行う。(1辺が15cmの折り紙が便利)
- ② $\frac{1}{3}$ に折った折り紙を



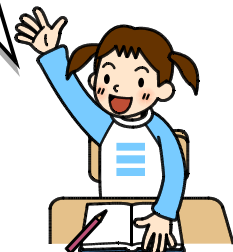
さらに半分に折ってみると， $\frac{1}{6}$ になる。

- ③ 水1Lの単位分数をもとに，そのいくつ分かを調べる。更に量の大小を比べる。



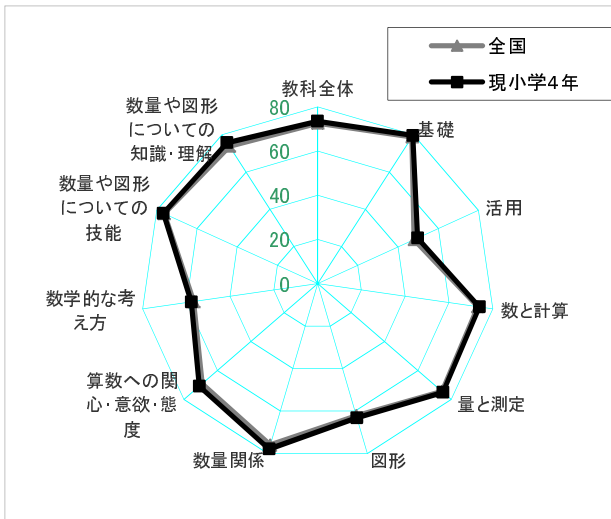
身につけさせたい「話し合いの言葉」の例 その2

- ・ $\frac{1}{3}$ L, $\frac{1}{4}$ L, $\frac{1}{6}$ L, $\frac{1}{5}$ L, $\frac{3}{5}$ L, $\frac{4}{5}$ L は，
どれも1Lを〇等分したうちの何個分という意味です。
- ・ $\frac{4}{5}$ L は， $\frac{3}{5}$ L より大きいです。
なぜかというと， $\frac{1}{5}$ L の**4個分と3個分だから**，
4個分の方が3個分よりも大きい**からです**。



小学 4年 算数

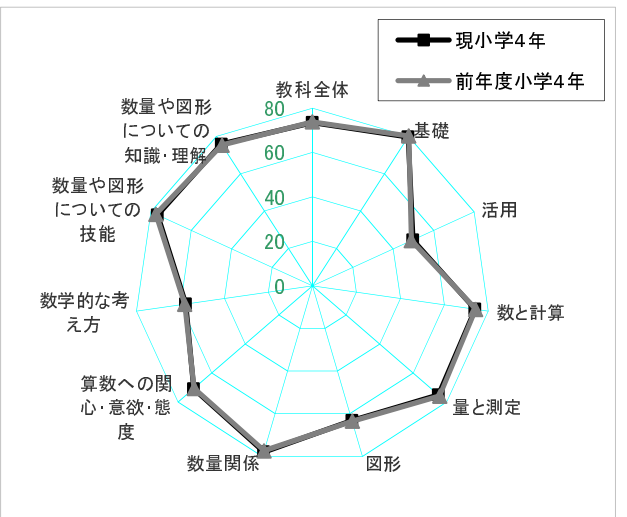
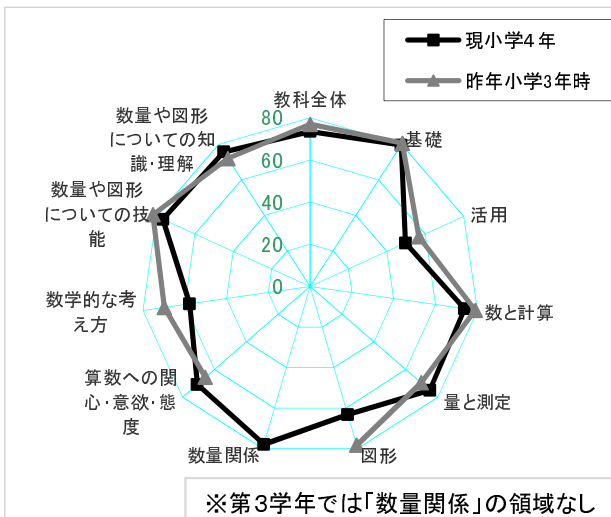
1. 全体傾向



コメント

- ・全国と柏市で比較すると、全ての領域・観点で約1ポイント平均正答率が上回っている。
- ・計算の基礎的技能は高いが、全国的な傾向と同様に、「数と計算」における2けたのかけ算やあまりのあるわり算の正答率が低い。また、「図形」における正三角形の適用問題の正答率が低い。
- ・全国的な傾向と同様に、身近にあるものの長さや重さを適切な単位で捉えることが苦手である。

2. 経年変化



コメント

- ・小学3年時と比べると、「算数への関心・意欲・態度」や「数量や図形についての知識・理解」の観点が向上した。一方、「数学的な考え方」や「数量や図形についての技能」は低下した。
- ・「図形」領域の低下が顕著である。

コメント

- ・平成25年度の小学4年と比べると、領域・観点ともに平均正答率はやや下回る(0.8ポイント以内)。しかし、「算数への関心・意欲・態度」や「数量や図形についての知識・理解」は、上回っている。

3. 強み(○)と弱み(●)

- 全体的には今回出題された内容については、おおむね身につけていると考えられる。
- たし算やひき算などの基礎的計算技能が高く、小数や分数の仕組みを知り計算も十分理解している。
- 「算数への関心・意欲・態度」が高く、これまでの算数に対する知識や理解も定着している。
- 「数と計算」領域で、桁数の大きいかけ算やわり算でも、答えの見通しを持って適切な処理ができるようにする必要がある。
- 「量と測定」領域で、身近にあるものの長さや重さを測定・推測し、適切な単位を考えたり、「図形」領域では、様々な図形の定義をもとに、筋道を立てて考えたり、体験的活動を行う必要がある。
- 筋道を立てて考えをつくり、表現方法を工夫しながら、図や式、算数用語を適切に使い、分かりやすく説明する活動を充実させていく必要がある。

4. 授業改善の方向，効果的指導例

(1) 授業改善の方向

3年間の経年変化により，算数の学習に対する意欲は第4学年から急激に減退することが明らかになっています。公式や計算手順を覚え，練習問題を繰り返すことに偏重した学習は，子どもにとって退屈で「わかる」喜びの少ない授業になってしまいます。自力解決や比較検討の過程で，自分の考えを持たせ，友達とかかわり，言語活動を充実させていくことで学習効果を高めている学校も増えています。学習することは楽しい，様々な考えを知ることが楽しいと思える学び合いのある授業づくりが重要であると言えます。

(2) 効果的な指導例

全てのヒントに当てはまる四角形を見つけましょう

- ① 向かい合う辺の長さが2組とも等しい四角形
- ② 2本の対角線が垂直に交わる四角形
- ③ 直角がある四角形



まず，①のヒントについて考えます。
この台形は，向かい合う辺の長さが2組とも等しくないで，①のヒントに当てはまりません。

正方形 長方形 ~~台形~~ ひし形 平行四辺形

次に，②のヒントについて考えます。
長方形と平行四辺形は，2本の対角線が垂直に交わらないので，②のヒントに当てはまりません。

正方形 ~~長方形~~ ~~台形~~ ひし形 平行四辺形

最後に，③のヒントについて考えます。
ひし形には直角がないので，全てのヒントに当てはまるのは正方形になることが分かりました。

正方形 ~~長方形~~ ~~台形~~ ~~ひし形~~ 平行四辺形

まず，③のヒントについて考えます。
直角があるのは，正方形と長方形です。

正方形 長方形 台形 ひし形 平行四辺形

次に，②のヒントについて考えます。
2本の対角線が垂直に交わるのは正方形です。
①のヒントを考えなくても分かりました。

正方形 長方形 台形 ひし形 平行四辺形

正方形は，①のヒントにも当てはまるか確かめてみましょう。

正方形は，4つの辺の長さが等しいので，①のヒントにも当てはまります。

ヒントづくりの例

正方形 長方形 台形 ひし形 平行四辺形

2人とも正解です。
たくさん条件があっても，1つずつ順に確かめていけばよいですね。
今度は，3つのヒントを自分でつくて，形当てクイズをしてみましょう。

☆参考資料 ☆
平成25年度 全国学力・学習状況調査
授業アイデア例(国立教育政策研究所)より
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/index.htm>

身につけさせたい「話し合いの言葉」の例

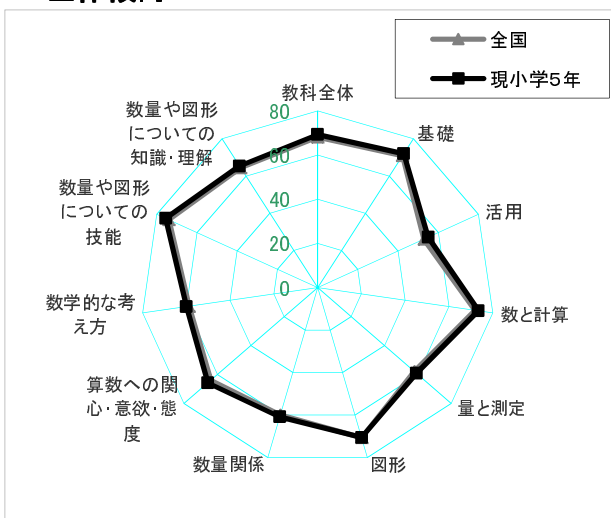
- 「話し合い」で大切なことは...
- ① 自分で考えた事柄の根拠を明確に言えるようにすること。
 - ② 友だちの考えを聞いて，自分の考えのよさや間違いに気づくこと。
 - ③ みんなで問題や考え方を共有し，考えを深めていくこと。
- ※形式的な「いいです」や「同じです」ということを続けていると，児童は考えなくなってしまう。なぜいいのか，同じなのかを話すことにより，算数の力がつきます。

～統一的・発展的な考え方を示す言葉～

- ・統一的な言葉
「まとめて言うと…。」
「いつでも使えるのは…。」
「共通しているのは…。」
- ・発展的な言葉
「もし…だったら…。」
「おそらく…だろう。」

小学 5年 算数

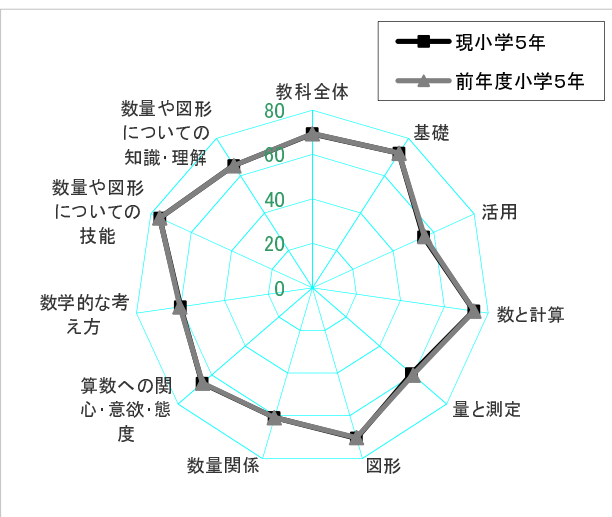
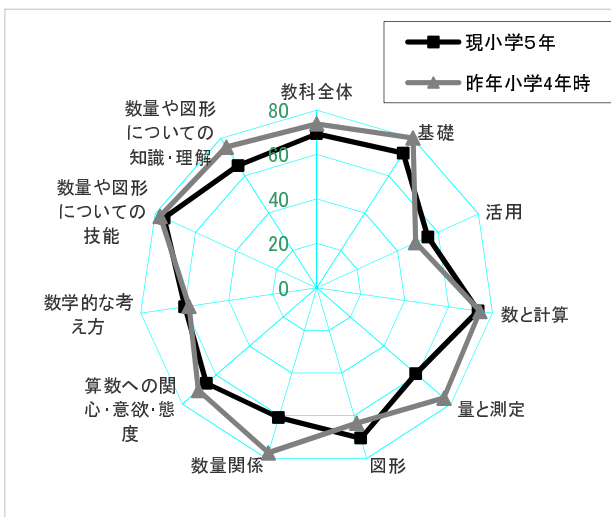
1. 全体傾向



コメント

- ・全国と柏市で比較すると、全ての領域・観点で約1ポイント平均正答率が上回っている。活用は全国と比べ、約2ポイント上回る。
- ・計算の基礎的技能は高いが、全国的な傾向と同様に、「数と計算」における小数のわり算の正答率が低い。また、「図形」における四角形の中にある垂直・平行を見つける適用問題の正答率が低い。
- ・全国的な傾向とも言えるが、伴って変わる2つの数量関係から記号を使った式に表すことが苦手である。

2. 経年変化



コメント

- ・小学4年時と比べると、「数学的な考え方」の観点約2ポイント向上した。一方、「算数への関心・意欲・態度」の観点が約4ポイント、「数量や図形についての知識・理解」の観点が約10ポイントと低下が顕著である。
- ・「図形」領域は向上したが、「量と測定」「数量関係」領域の低下が顕著である。

コメント

- ・平成25年度の小学5年と比べると、領域・観点ともに平均正答率はほぼ同じで、差は1ポイント以内である。
- ・全国的な傾向も同様であるが、学年が上がるにつれ「算数への関心・意欲・態度」や「数量や図形についての知識・理解」が、特に低下する傾向にある。

3. 強み(○)と弱み(●)

- 全体的には今回出題された内容については、おおむね身につけていると考えられる。
- 基本的な四則計算の技能が高く、四則混合や小数、分数の計算も十分理解している。
- 全国と比較して「算数への関心・意欲・態度」が高く、これまでの算数に対する知識や理解も定着している。
- 「数量関係」領域で、任意の数量を表すときに適したグラフは何かを考える。また、きまりをみつけて記号を使った式に表すことができるようにする必要がある。
- 「図形」領域で、垂直・平行や対角線の性質を、三角形や四角形などの図形の中でもあてはめて、理解させる必要がある。
- 筋道を立てて考えをつくり、表現方法を工夫しながら、図や式、算数用語を適切に使って分かりやすく説明する活動を充実させていく必要がある。

4. 授業改善の方向，効果的指導例

(1) 授業改善の方向

基礎的・基本的な学習事項の習得に加え，言語活動をさらに充実させていくことが大切です。自分の考えをしっかりと持たせ，話し合い活動で考えを深めることはもとより，さまざまな手法（絵や図，線分図，数式，文字を用いた式）で表現し，関連付けていくことで思考が深まります。また，学習の中で「見通し」と「振り返り」を大切にすることは，次の学びにつながります。

(2) 効果的な指導例

分母のちがう分数のたし算の仕方を考えよう

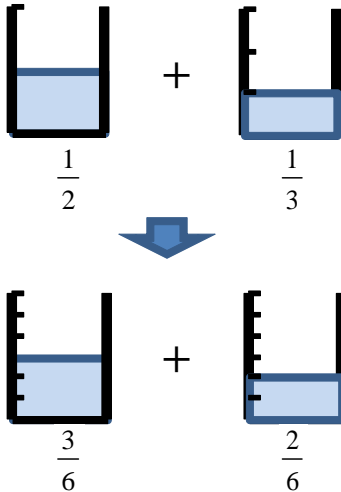
$$\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{2}{5}$$

$$\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{1 \times 3}{2 \times 3} + \frac{1 \times 2}{3 \times 2} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}$$

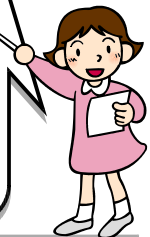


・①は，和が半分より小さくなっていておかしいと思います。
 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ とを足したのに半分より小さくなるのはおかしいと思います。
 ・分数が同じなら，計算することができます。だから通分して分母をそろえればよいと思います。

計算の順序だけではなく



分母が同じ分数どうしなら，計算できます。
 だから，分母をそろえるために通分します。
 2と3の最小公倍数は6です。分母を6にするために， $\frac{1}{2}$ の分母と分子に3を， $\frac{1}{3}$ の分母に2をかけます。
 図で説明すると，分母をそろえるということは，このように，どちらの目盛りも6にそろえることです。
 そして「 $\frac{1}{6}$ のいくつ分」と考えます。
 すると， $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6}$ となり，分母が同じ分数にできたので，計算することができます。



《ワンポイントアドバイス》

- ・図や式を関連づけ，計算のイメージを持たせましょう。裏感を伴って理解させることが大切です。
- ・なぜそのように計算したのか，根拠や意図を明らかにし，筋道立てた説明のためのモデルをつくりましょう。その際，算数の用語を適切に使わせる事も大切です。
- ・聞いている人に分かりやすく伝えるために，図を指し示しながら説明させましょう。



身につけさせたい「話し合いの言葉」の例

★参考資料★
 千葉県教育委員会
 「学びの突破ロガイド」より

～論理的な考え方を示す言葉～

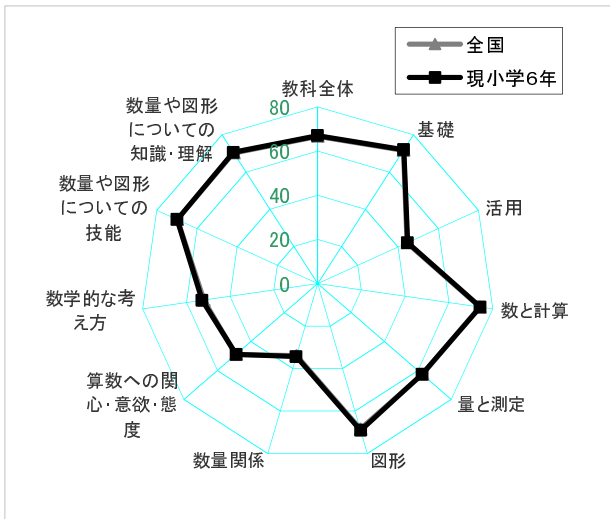
- ・帰納的な言葉
 「どれも同じだから…，これも…になります。」
 「○○は…，△△は…，□□は…，
 だからいつでも…になります。」
- ・類推的な言葉
 「前は… だったから，今度も… になると思います。」
 「○○と△△は似ているから，
 △△も… になると思います。」
- ・演繹的な言葉
 「なぜかというと，○○は…だからです。」
 「○○は…だから，…です。」



「同じです」と答えた児童がいたら，どこが同じかを自分の言葉で言わせてみましょう。自分の言葉で言わせることにより，同じだと思っていたことが少し違っていることに気づくことがあります。

小学 6年 算数

1. 全体傾向



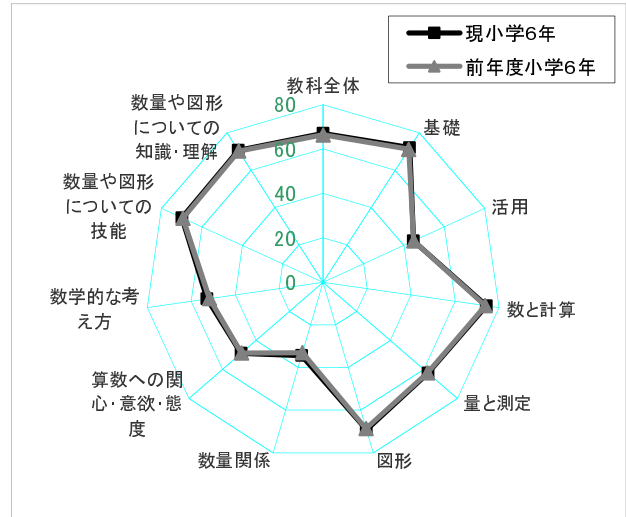
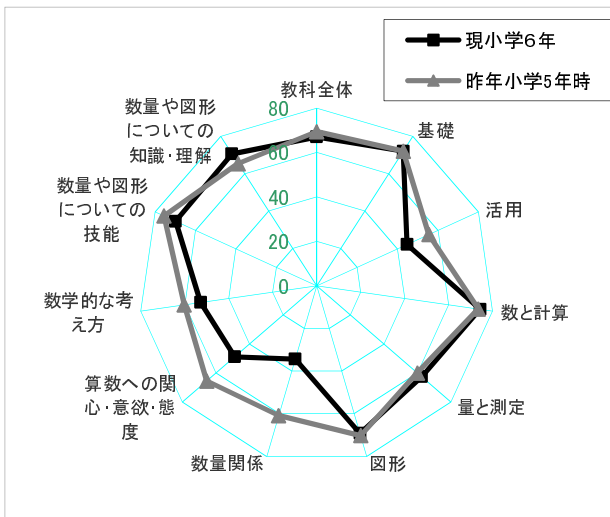
コメント

・昨年度調査においては、問題ごとに全国と比較した場合、正答率が大きく上回る問題・下回る問題があった。しかし今年度は大きな差異がなく、全体的に同程度の結果となっており、平均的な学力を有していると考えられる。

・「数と計算」領域が比較的良好な結果であるが、問題ごとに全国と比較すると、小数の除法の計算において、余りがない場合の正答率が上回るのに対し、余りがある場合の正答率は3ポイント以上下回っている。

・このチャートにはないが、全体を通した無解答率は昨年度より0.3ポイント改善し、5.3%となっている。

2. 経年変化



コメント

・この学年は、昨年度全ての領域・観点別正答率が全国を上回っていたが、今年度は同程度となっているため、全国的にはやや低下していると考えられる。この間、児童の大幅な出入りはなく、また柏市では昨年度の6年生でも同じ傾向があったことから、この原因を引続き精査する必要がある。

コメント

・昨年度は「数量関係」領域に課題があったが、今年度は①②により改善した。
①表のデータから割合を求める問題、帯グラフの割合から人数を求める問題の正答率が向上し全国を上回った。②百分率から代金を求めて比較する問題の正答率が改善した(昨年度は全国より8ポイント以上低かったが、今年度は3ポイント以内となった)。

3. 強み(○)と弱み(●)

- 全体的には、今回出題された内容については、概ね身につけていると考えられる。
- 「数と計算」領域の正答率が高い。
- 無解答率が改善している。
- 数量関係の指導に、改善の成果が見られる。
- 柏市の学力向上策のベースである関心・意欲・態度が低下している。
- 分数・小数に関する問題の正答率が、基礎・活用ともやや低く課題がある。
- 割合を理解し、割合を使って問題を解決することについて、なお課題がある。

4. 授業改善の方向，効果的指導例

(1) 授業改善の方向

① 教えて考えさせる授業の推進

児童が、既習の知識・技能や考え方を活用して学習できるように、教える内容と考えさせる内容をバランスよく計画する。

a 教える内容

課題を解決していくために必要な基礎的・基本的な知識・技能や考え方を教える。

※ この際、教科書に示された解き方について考えさせることも効果的。

b 考えさせる内容【応用的な内容】

新たに得た知識・技能や考え方を使得って、類似問題や、少し難易度が高い課題の解決に取り組みさせる。

c 考えを深めさせる内容【活用的な内容】

習得した知識・技能や考え方を活用して課題に取り組み、話し合い・教え合い活動により考えを深めさせる。

② ことばと数学的な表現を結び付ける工夫

児童が、問題文を式化する過程で、情報を整理し表現する手法と習慣を身につけられるように計画する。

(2) 効果的な指導例

「ことばと数学的な表現を結び付ける工夫」

問題文の中から、基準量・比較量・割合を表す部分を明確にし、それぞれの関係を数直線等で整理しながら指導することによって、理解を深める。

【4年生】

30cmの赤い紙テープの長さは、

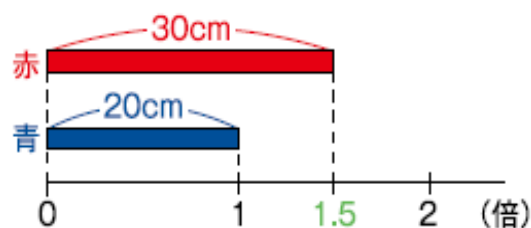
△比較量

20cmの青い紙テープの長さの

△基準量

1.5倍です。

△割合



【5年生①】

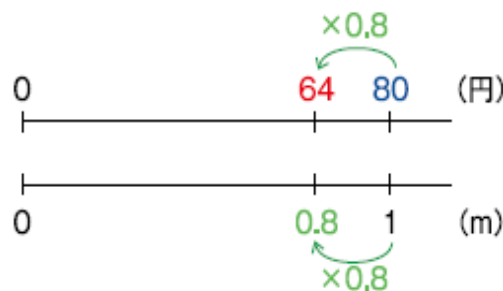
1mの値段が80円のリボンの、0.8m分の

△基準量

△割合

代金は64円です。

△比較量



【5年生②】

ある犬の生後10日の体重が630gで、

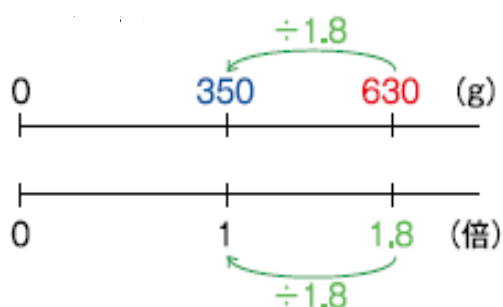
△比較量

生まれたときの体重の1.8倍にあたる時、

△割合

生まれたときの体重は350gです。

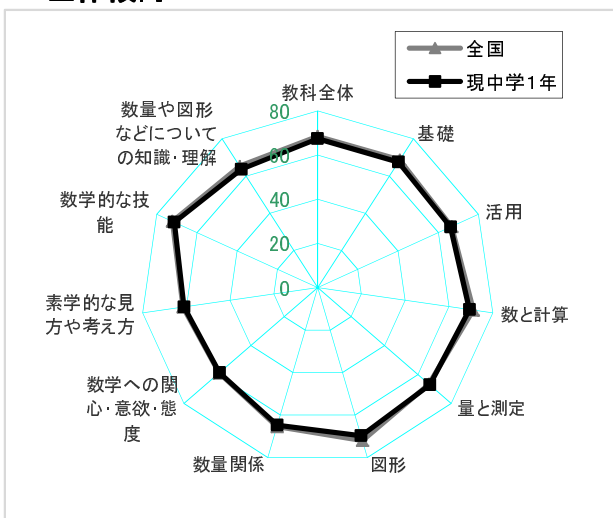
△基準量



平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(国立教育政策研究所)より

中学 1年 数学

1. 全体傾向



コメント

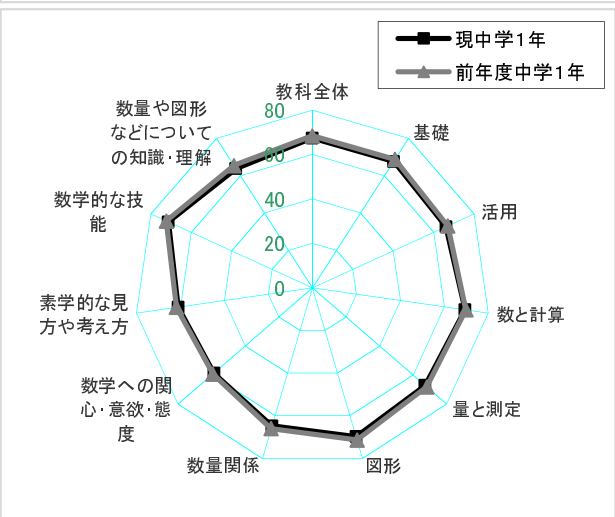
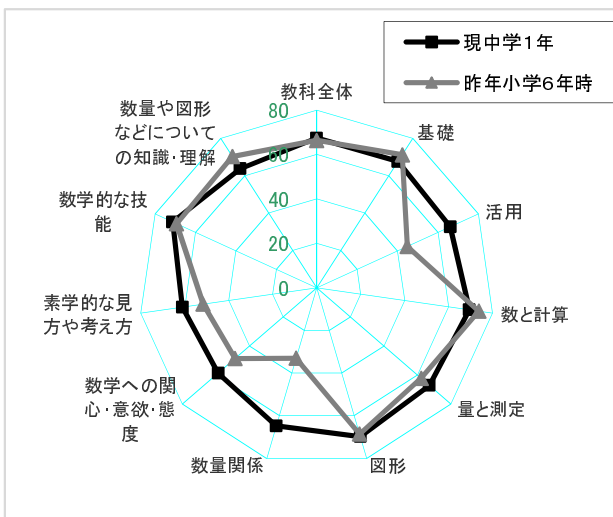
・昨年度は基礎でやや下回り活用で上回っていたが、今年度は僅かながら基礎・活用ともやや下回る結果となっている。しかし全体的には全国とほぼ同等の結果である。

・「数と計算」における小数・分数の計算、「図形」領域における対称な図形、「数量関係」領域における比例・反比例の問題の正答率が低い。また「数量関係」領域で、場合の数の活用型問題の正答率が全国を8ポイント以上下回っており課題がある。

・「量と測定」領域における平均値、「数量関係」領域における百分率・グラフの問題の正答率が高い。

・全体をとおした無解答率が、昨年度より約1ポイント増加し4.7%となっている。

2. 経年変化



コメント

・都市部の特徴として、中学校進学時に生徒数が8.2%減少(多くは私立中学校に進学)しているため単純な比較はできないが、昨年度と同様に、活用型の問題、「量と測定」、「数量関係」領域、「関心・意欲・態度」、「数学的な考え方」の観点で改善が見られることから、小学校5年～6年の習得段階で改善が図られたものと推察される。一方、「数と計算」の領域、「知識・理解」の観点では、6年時よりも低下しており、低下率も昨年度より大きくなっている。

コメント

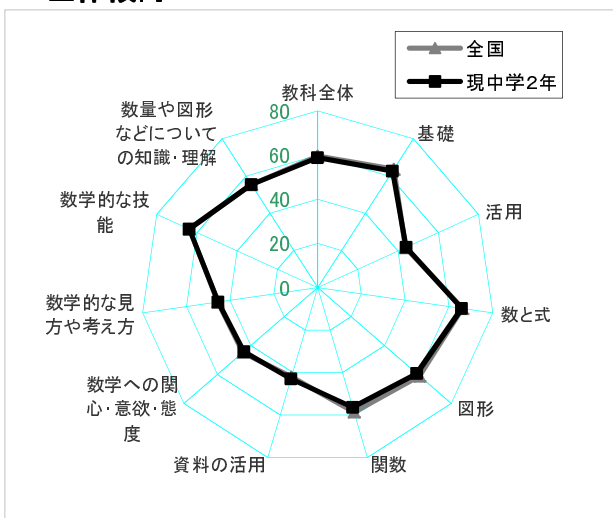
・平成24年度調査においては、領域別・観点別の全ての項目で全国平均を上回っていたが、平成25年度調査・今年度調査とも全国とほぼ同等の結果となった。それぞれの経年変化から、それぞれの小学校6年時の習得段階で発生した差が継続していると推察される。

3. 強み(○)と弱み(●)

- 全体的には、今回出題された内容については、概ね身についていると考えられる。
- 柏市の学力向上策のベースである関心・意欲・態度が向上している。
- 平均値・グラフ・百分率など、データ活用の技能・考え方を問う問題により結果が出ている。
- 基礎的な問題では、小数・分数の計算及び比例の関係を式化する技能、対称な図形及び反比例の知識に課題がある。
- 活用型の問題では、場合の数を検証する問題の正答率が低く課題がある。

中学 2年 数学

1. 全体傾向

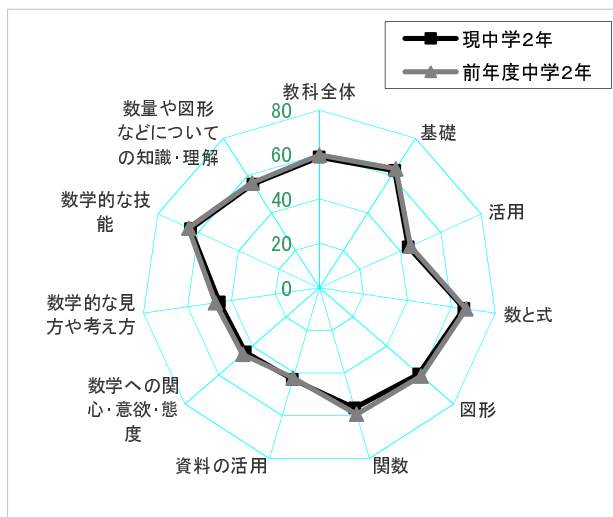
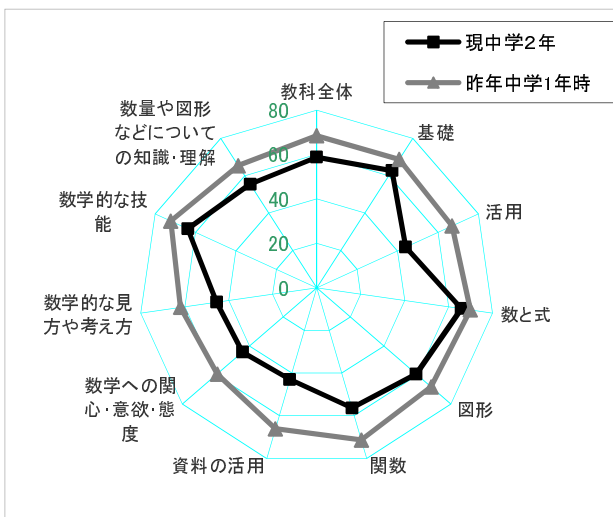


コメント

平均正答率に関しては、全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

問題の内容面からみると、全国的な傾向として、計算の復習や正の数・負の数の正答率は高く、「数と式」と「図形」の領域の「数学的な技能」は定着している。その反面、「資料の活用」領域の資料の散らばりと代表値の問題の正答率が低く、「数学的な見方や考え方」の観点で定着していない傾向がある。

2. 経年変化



コメント

昨年の1年時と比べると、すべての領域・観点ともに下回っている。基礎内容はやや下回っている程度で、活用内容は大幅に下がっている。中学校数学の内容の難易度が高くなった影響によると思われる。

コメント

全体的に平成25年度とほぼ同等だが、正答率は若干下回っている。しかし、「資料の活用」の領域で全国を上回る問題がある。観点別では、「数学への関心・意欲・態度」と「数学的な見方や考え方」の観点でやや下回っていることで応用問題に弱い傾向がうかがえる。

3. 強み(○)と弱み(●)

○計算の復習や正の数・負の数の「数と式」領域の「数学的な技能」の観点で定着している。

○「図形」領域の空間図形の問題内容で、知識・理解の観点で定着している。

●「関数」領域の比例・反比例の内容において、式とグラフの読み取りの知識・理解と技能に課題がある。

●「資料の活用」領域の「資料の散らばりと代表値」の内容で、知識・理解と考え方に課題がある。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 授業改善の方向

- ・ 2つの数量関係を克服するためには、
自分で考え、書いてみる⇒自分で整理する⇒それを他人に説明する
という経験を積むことと考える。関数の3つの要素『表・グラフ・式』を使った考え方を常に比べる授業を取り入れることが大切である。
- ・ 2年生から論理的にものごとを説明する証明問題を学習するため、既習のどの性質に着目するのかを明確にする工夫が必要である。

(2) 効果的指導例

①

一次関数における「思考を整理するシート」の活用

※数学的な表現を用いて、説明し伝え合う活動の実践記録！啓林館より

問題

伊藤さんと坂本さんは、携帯電話をS社に乗り換えようと考えている。しかし、店に行くとプランがいくつかあり、どのプランにしようか迷っている。AからCプランのうち、どのプランにすればよいだろうか。今日は、S社のショップ店員さんになり、2人にアドバイスしてあげよう。

Aプラン 1分間60円で基本料金なし。
Bプラン 毎月の基本料金2000円、1分あたり20円の通話料。
Cプラン 毎月の基本料金2000円、通話は1分ごとに200円。
ただし、通話時間90分までの通話は無料。



表
グラフ
式
説明シート

表 説明シート	グラフ 説明シート	式 説明シート

②

図形分野「方針を立てて証明しよう」 ～与えられた条件を整理し、着目すべき性質を見いだす～

※平成25年度全国学力学習状況調査 中学校数学 授業アイデア例より

数学
TYPE I・Ⅱ
B(証明)の成例

「方針を立てて証明しよう」

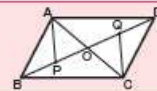
～与えられた条件を整理し、着目すべき性質を見いだす～

証明の学習では、どのように考えればよいかかわからず証明を書けない生徒が多くみられます。このような生徒には、証明の方針を立てる活動を通して、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質を見いだしたりできるように促すことが大切です。

そこで本アイデア例では、「I 結論を示すためには何がわかればよいか」、「II 仮定からいえることは何か」、「III IとIIを結び付けるには、あと何がえればよいか」を考え、証明の方針を立て、その方針に基づいて証明できるようにする指導事例を紹介しています。

授業アイデア例

問題 右の図のように、平行四辺形 ABCD の対角線の交点を O とし、線分 OB, OD 上に、BP = DQ となる点 P, Q をそれぞれとります。このとき、AP = CQ となることを証明しなさい。



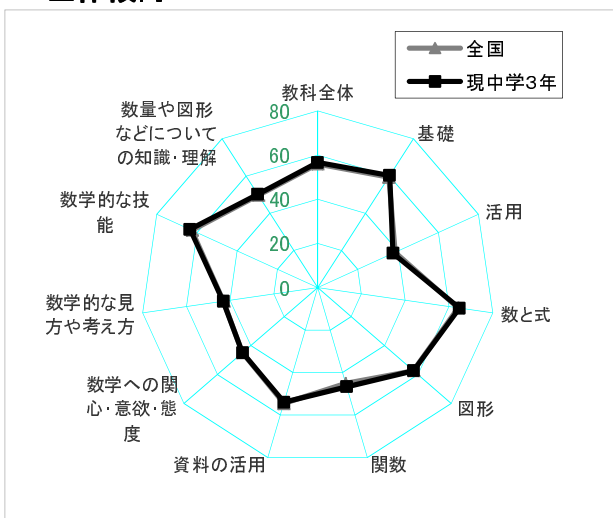
本授業アイデア例活用のポイント

- 本アイデア例で取り上げた着目する図形の順序は一例である。証明の方針については、学級の実態に応じて、他の順序で取り上げたり、並列的に取り上げたりして授業を展開することも考えられる。また、△APD と △CQB など、他の図形に着目して証明することも考えられる。
- 証明の方針を立てる際には、結論を構成する要素どうしが対応している図形や、それらの要素を含む図形に着目することが大切である。この授業では、AP と CQ が対応する辺となる2つの三角形に着目したり、AP と CQ を含む図形を構成したりすることが大切である。

参照 ▶ 「平成25年度 報告書 中学校 数学」P.111～P.116, 「平成25年度 解説資料 中学校 数学」P102～P.107

中学 3年 数学

1. 全体傾向

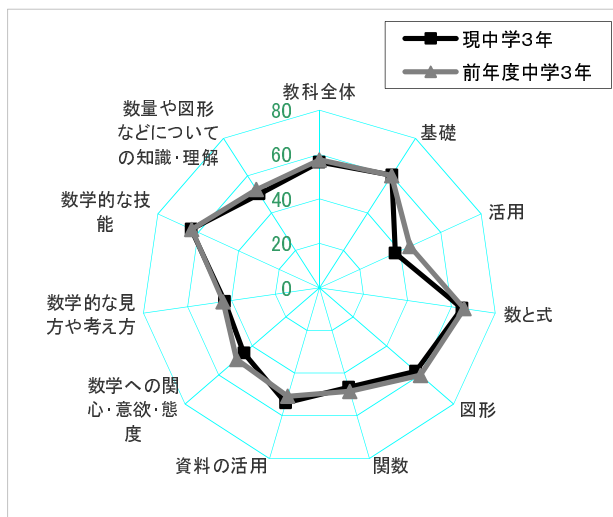
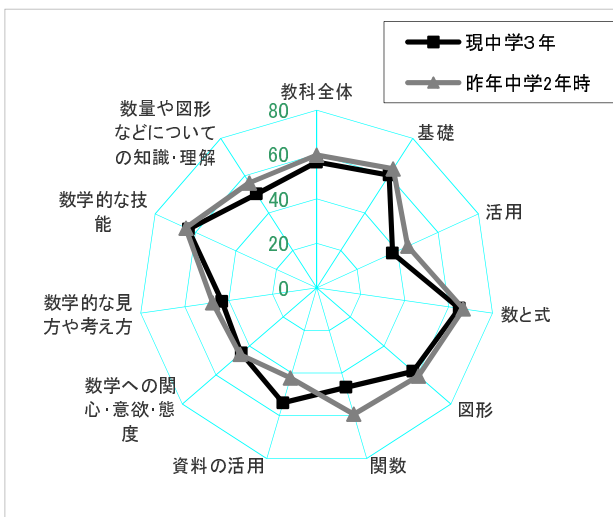


コメント

平均正答率に関しては、全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

問題の内容面からみると、全国的な傾向として、計算の復習や図形の性質の正答率は高く、「数と式」と「図形」の領域の「数学的な技能」は定着している。その反面、1次関数と証明問題の正答率が低く、「数学的な見方や考え方」が定着していない傾向がある。

2. 経年変化



コメント

昨年の2年時と比べると基礎・活用内容ともに下回り、「数量や図形などについての知識・理解」の観点も下がっている。領域別でみると「関数」分野が大きく下回っているが、図形と関数が融合した総合問題によると思われる。

コメント

基礎内容は、平成25年度とほぼ同じであるが、活用内容で下回っている。「数学への関心・意欲・態度」と「数量や図形などについての知識・理解」の観点で下回っていることは、じっくり考えて答える問題に弱い面がうかがえる。

3. 強み(○)と弱み(●)

○計算の復習や式の計算の「数学的な技能」の観点は、全国平均を上回り、定着している。

○「図形」領域の図形の性質の問題内容で、知識・理解と技能の観点が定着している。

●「関数」領域の1次関数の内容において、グラフを読み取る知識・理解を要する問題での正答率が低く、特にグラフと図形の融合問題の無回答率が63%であり課題がある。

●連立方程式の知識・理解と技能、考え方に課題がある。特に $A=B=C$ の形の式の無回答が目立った。

●「図形」領域の証明問題の正答率が低い。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 授業改善の方向

・3年生では受験を意識した総合的な問題に対応できるようにするため、既習事項を振り返らせ、その特徴やポイントを何度も確認していく必要がある。それを生徒たちの中から気づかせるということを工夫した授業展開を考える。

(2) 効果的指導例

① 関数 $y=ax^2$ における「学び直しの機会」の設定

※参考: 千葉県総合教育センター → 指導案の検索⇒「Wakaba」 研究論文・研究報告書 数学と入力し, No.8より

中学校3学年における関数領域の学習において、既習事項の比例・反比例、一次関数の内容を学び直すとともに関数 $y=ax^2$ との比較を行うことで、未習及び既習、双方の理解を深めていく。

学習内容とともに気づいたことをまとめるワークシートの活用
※その中に必ず「学び直し」ポイントを入れる。

ワークシートを用いた授業の感想
・その日にやる内容がはっきりしていた。
・ノートに書くより手間が省けて、先生の話に集中できた

【資料2】単元の学習内容と「学び直しの機会」の設定

時	学習内容	「学び直しの機会」の設定
1	関数 $y=ax^2$ の存在を知る(落下運動の法則)	比例、反比例、一次関数の表との比較
2	関数 $y=ax^2$ の特徴をまとめ、式を求める(代数的な処理)	比例、反比例、一次関数の式や表の特徴との比較
3	$y=ax^2$ のグラフをかく	一次関数、反比例のグラフとの比較
4	$y=ax^2$ のグラフをかく(aの値によるグラフの変化)	定数部分の変化にともなう、比例と一次関数の式やグラフとの比較
5	グラフを用いてyの値の増減について考察し、変化を求める	一次関数の表やグラフとの比較
6	変化の割合の意味と求め方	比例、反比例、一次関数の表や式との比較
7	変化の割合のグラフへの影響(平均の速さ)	比例、反比例、一次関数の表、式、グラフとの比較
8	基本のたしかめ	
9	利動距離について	空走距離(比例)と利動距離($y=ax^2$)を表で比較
10	ふりこの長さや周期について	
11	タクシーの料金(増設関数)について	既習の関数の表やグラフの表し方をもとに、特徴を見いだし、関数関係を決定づける
12	正方形タイルをピラミッド状に並べ、段数によっても変わって変わるものを見だし、説明する	
13	章末問題	

「学び直し」を踏まえた授業の感想
・一次関数とかよくわからなかったことを思い出すことができた。
・4つの関数を比較しながらできたので、わかりやすかったです。

② 図形と相似における「学習履歴図」づくりとその活用

※参考千葉県総合教育センター⇒指導案の検索⇒「Wakaba」 研究論文・研究報告書 数学と入力し, No.6より
学習指導案 中 数学と入力し, No.13より

学習履歴図【図形と相似】

日			
内容			
問題解決のための足場			
問題解決後のまとめ			
自己評価	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D
先生から			

○足場やまとめなどを記録していくことで、自分が今まで学習してきたことを振り返ることができます。

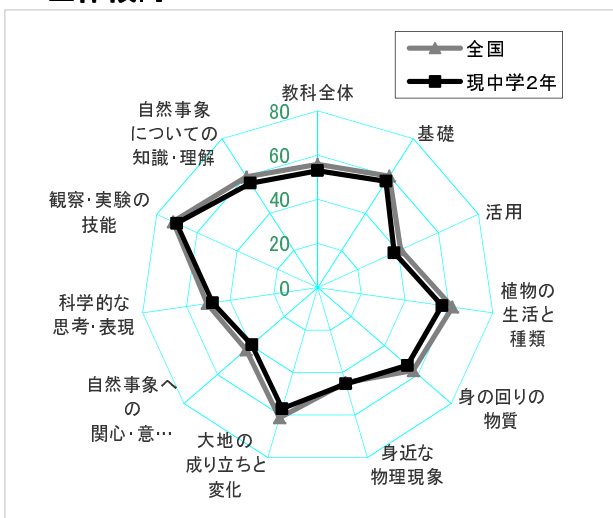
○その後の学習で問題解決に使った足場やまとめは印をつけておこう。

○新しい問題を解くときには今までの自分の学習を振り返ることが大切です。

○2学年で学習した足場は別のシートにまとめてあるのでそちらも活用しよう。

中学 2年 理科

1. 全体傾向

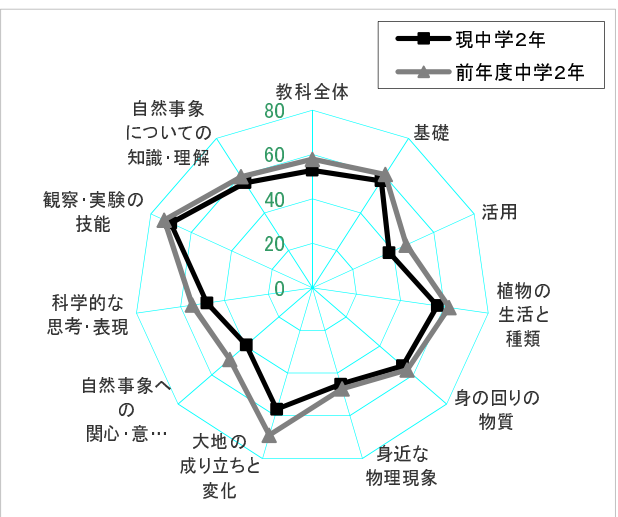
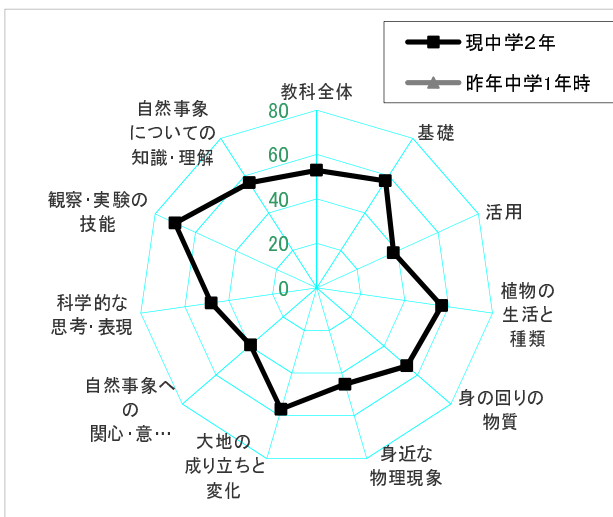


コメント

・今回の調査では、

- ①「地層の重なり」の「示準化石」に適した生物の特徴を尋ねる問題について、**5.4%**の正答率であった。
- ②「力と圧力」の「鏡に全身を映す方法」を尋ねる問題について、**10.0%**の正答率であった。
- ③「水溶液」の「質量%濃度」を尋ねる問題について、**25.4%**の正答率であった。
- ④「光と音の性質」の「光源・凸レンズ・スクリーン位置」と像の大きさの変化を尋ねる問題について、**27.7%**の正答率であった。

2. 経年変化



コメント(1年時、理科の調査を行っていない。)・全ての領域や観点で、全国の平均を下回っている。理科について、実験や観察を多く取り入れて、興味を持たせること、基礎的な憶える問題を繰り返し憶えることを並行して行うようにすることが必要である。

コメント・この学年は、現3年生が2年生のときより学力が低いことが言える。問題の難易度の違いがあるので、比較は難しいが、観点における関心・意欲・態度が低いことが他の観点に影響していると考えられる。理科が好きになる実験や観察を増やすことを意識する必要がある。

3. 強みと弱み

<強み>

- ①「植物の生活と種類」における水の通り道については、多くの生徒が理解して定着が図られている。(選択問題)
- ②「植物の生活と種類」における分類の観点について、理解し定着が図られている。(選択問題)
- ③「身近な物理現象」における力と面積の関係について、多くの生徒が理解し、定着が図られている。(選択問題)

<弱み>

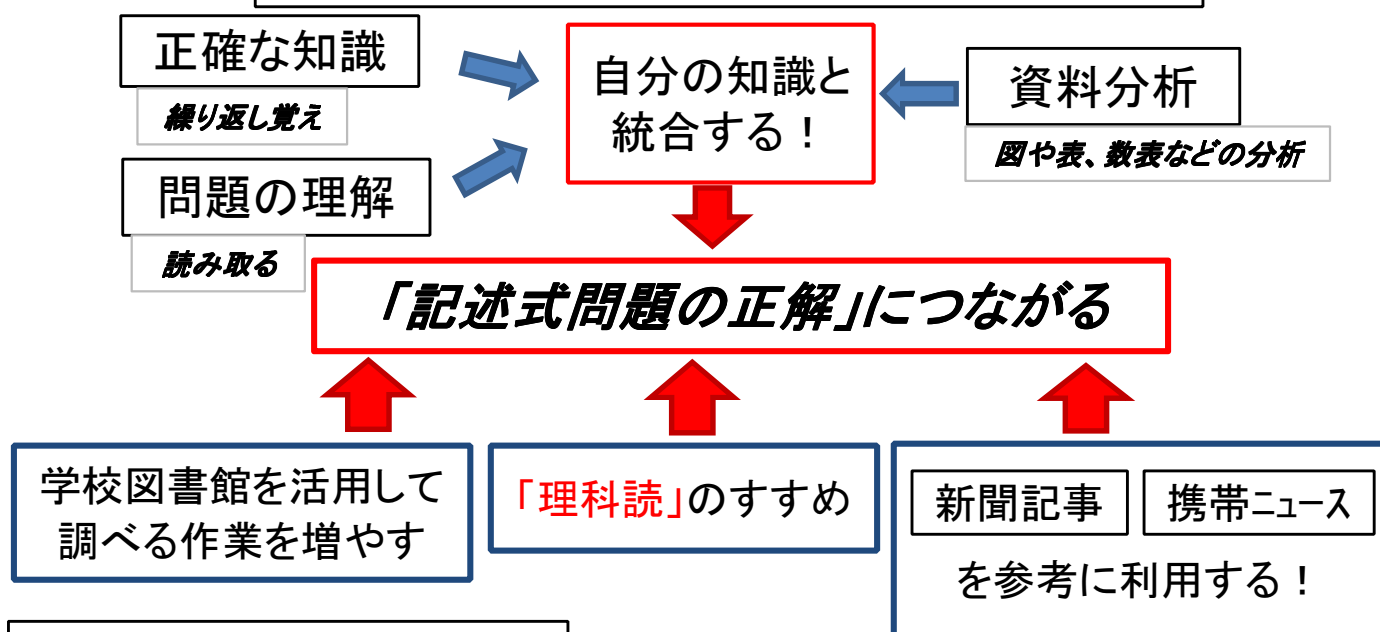
- ①「大地の成り立ちと変化」における火山岩のつくり『斑状組織』と回答できない。(短答問題)
- ②「身の回りの物質」における水溶液を粒子のモデルで表すことができない。(選択問題)
- ③「大地の成り立ちと変化」における堆積岩の特徴からその成因が理解していない。(選択問題)
- ④「身の回りの物質」における電磁誘導や磁性を調べることで身近な物質を区別できない。(選択問題)

4. 授業改善の方向、効果的指導例

○「示準化石」は、その化石が出土した地層が、どの時代に堆積したかを推定できる化石を示します。今回の問題では、示準化石になれる生物が生きていた期間と場所を尋ねる問題でした。
○記述問題ということで、問題内にヒントはあったものの、正解率は大変低く、5%台でした。さらに問題と感じたのは、無回答の生徒が51.5%もいたということです。

※以下に、記述問題を強くする方法を示しますが、理科に興味や関心を持つということ、理科は、わからないことを実験や観察、情報から分析して導き出すものだということを、あらためて示さなければならないと感じています。どのように楽しみながら、考える事を進めていくかを、考えながら、実験観察を豊富に取り入れ、記述の力もつけていかなければならない。時間配分も含め、バランスよく授業を展開していきたいものです。

理科記述式問題を強くするため



<授業の展開、改善のポイント>

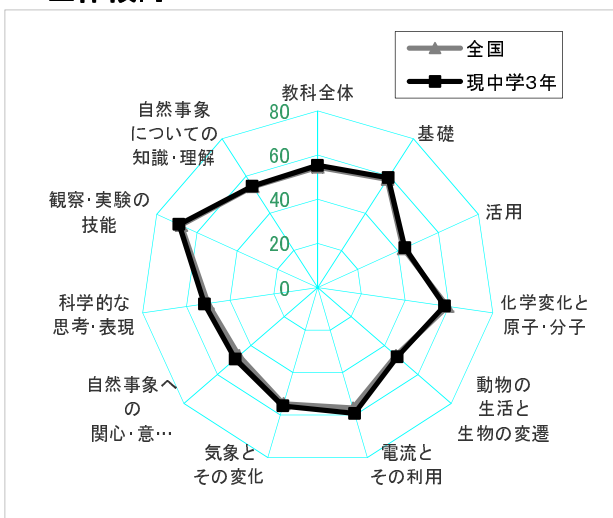
1. 実験や観察を少人数で行うようにする。
2. 実験や観察の作業分担、予想、結果、考察、まとめ等の時間を確保する。
3. 記述問題の無回答を減らすために、実験や観察の評価を大切にする。特に、結果が他と異なった場合でも「否定」するのではなく、異なった理由を検証することに重みをおく。

<記述式の勉強>

1. 理科の用語や語句などを単に覚えるだけでなく、それらの用語や語句を関連づけて覚えておくこと。
2. 日ごろから新聞に目を通しておくこと。(内容だけではなく、書き方を参考に)
3. 書く練習をしておくこと。内容は何でもかまいません。今日あったこと、部活のこと、友だちのこと、素材はたくさんあるはずですよ。字数に制限をもうけ、書く練習をするとよいでしょう。

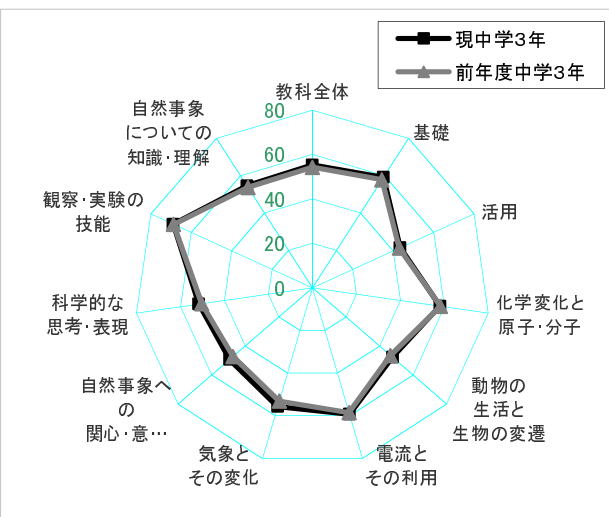
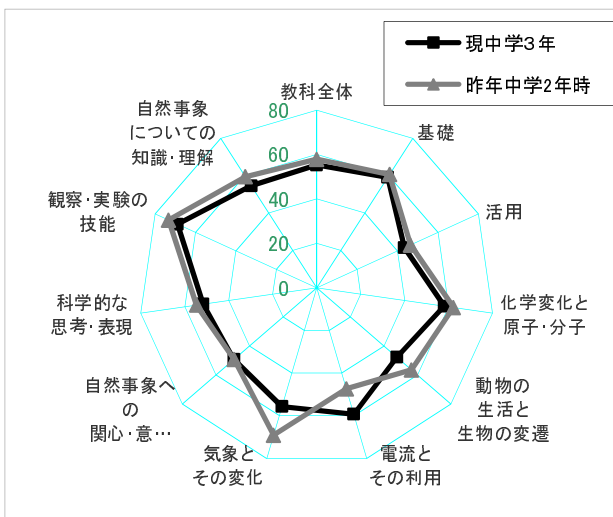
中学 3年 理科

1. 全体傾向



コメント
 今回の調査では、
 ①「動物の分類・生物の変遷と進化」の脊椎動物と無脊椎動物のからだの特徴について比較する問題について、16.2%の正答率であった。
 ②「電流の性質」の家庭内配線が並列である理由を説明する問題について、16.2%の正答率であった。
 ③「雲のでき方と水蒸気」の地球上の水の、海・陸上・地下に存在する割合を答える問題について、17.5%の正答率であった。
 ④「動物のからだのつくりとはたらき」の組織液を答える問題について、25.9%の正答率であった。

2. 経年変化



コメント
 ・単元によっては、2年から3年で逆転するなどの変化が見られるが、全体として大きな変化は見られない。平均するとやや下回っているという結果であった。

コメント
 ・昨年度の3年生と、ほぼ同様の結果が得られている。

3. 強みと弱み

<強み>

- ①「気象と その変化」における気温・露点・飽和水蒸気量の関係を理解し、定着が図られている。(選択問題)
- ②「電流とその利用」における交流や直流の違いを理解し、定着が図られている。(選択問題)
- ③「動物の生活と生物の変遷」における「柔毛」に作りの利点について理解し、定着が図られている。(記述)

<弱み>

- ①「電流とその利用」における家庭の配線が並列であること、その理由が説明できない。(記述)
- ②「化学変化と原子・分子」において、水の電気分解について、化学反応式を表すことができない。(短答問題)
- ③「動物の生活と生物の変遷」における両生類の呼吸の仕方について説明できない。(記述)

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

○最もできなかった問題は、家庭内の配線が図示され、「並列回路」であるということがわかる。そして、その理由を示さなければならないものです。正解率は、16.2%でした。やはり記述の力の不足を感じます。
○以下に、この問題の回答の解説を示しました。これは、授業でこの話をしなければならないということです。授業で丁寧にここまで説明しなければならないと考えます。

<1. 一つのスイッチを切ると...>

たとえば、家庭で冷蔵庫と掃除機と照明を使っているとします。これらを電源—冷蔵庫—テレビ—照明—電源 というふうに直列回路を作ったとします。全部使っているうちはいいのですが、ここでテレビのスイッチを切ると、回路はそこで切れてしまうので、すべての電気器具が消えてしまう。並列回路ならそんな心配は無く、冷蔵庫、掃除機、照明それぞれのスイッチでON/OFFができます。外出中に冷蔵庫はつけて、テレビも照明も切っておくこともできます。

<2. それぞれの電気器具にかかる電圧は...>

普通の家庭用電源は100Vです。これにあわせて、家庭用の電気器具は100Vで正常にはたらくように作られている。しかし、また、電源—冷蔵庫—テレビ—照明—電源 というふうに直列回路を作ったとすると、直列回路の電圧の性質を当てはめると電源の電圧(100V)=冷蔵庫にかかる電圧+テレビにかかる電圧+照明にかかる電圧3つ合わせて100Vってことは、それぞれにかかる電圧は100Vより小さくなってしまい、冷蔵庫もテレビも照明も使い物になりません。並列につなげば、各電気器具に加わる電圧の大きさと、電源に加わる電圧の大きさは等しいので、冷蔵庫もテレビも照明も100Vが配給されます。でも、並列の電流は、1個1個の回路を流れる電流の和になるので、電源に流れる電流=冷蔵庫に流れる電流+テレビに流れる電流+照明に流れる電流となり、意外に大きな電流が流れる危険性があります。タコ足配線がいけない、といわれているのもこのためです。

<授業の展開、改善のポイント>

1. 実験や観察を行うことは、定着につながるので、どんな**実験や観察も行いましょう。**

2. 実験や観察の作業分担、予想、結果、考察、まとめ等の**時間を確保する。**

3. 話し合う時間を設けて、他の考えを聞き、その意見を**まとめる時間をとり、文章を書く時間を増やす。**

4. 実験や観察は、**3人程度の少人数**で行い、作業しない児童生徒を出さないように心掛ける。

<記述式の勉強>生徒への助言として...

1、理科の用語や語句などを単に覚えるだけでなく、それらの用語や語句を関連

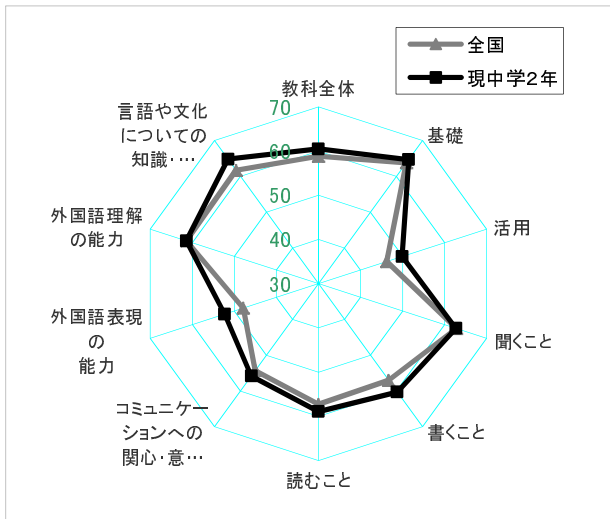
用語・語句(塩化水素)←(塩酸)(塩化ナトリウム)(塩化バリウム)等

2、日ごろから新聞に目を通しておくこと。(内容だけではなく、書き方を参考

3、書く練習をしておくこと。内容は何でもかまいません。今日あったこと、部活のこと、友だちのこと、素材はたくさんあるはずです。字数に制限をもうけ、書く練習をするとよいでしょう。

中学 2年 英語

1. 全体傾向



コメント

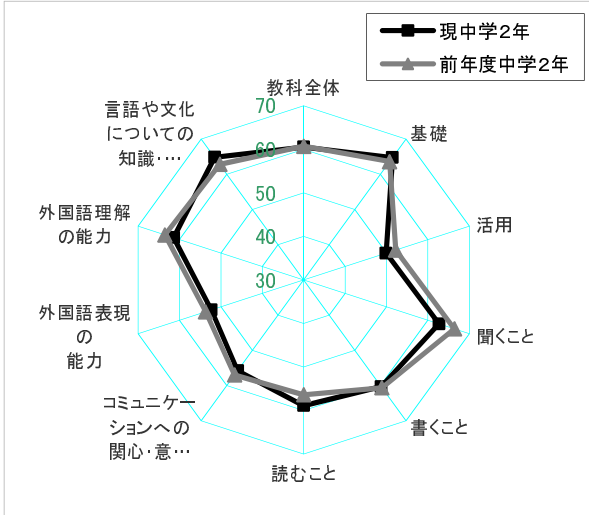
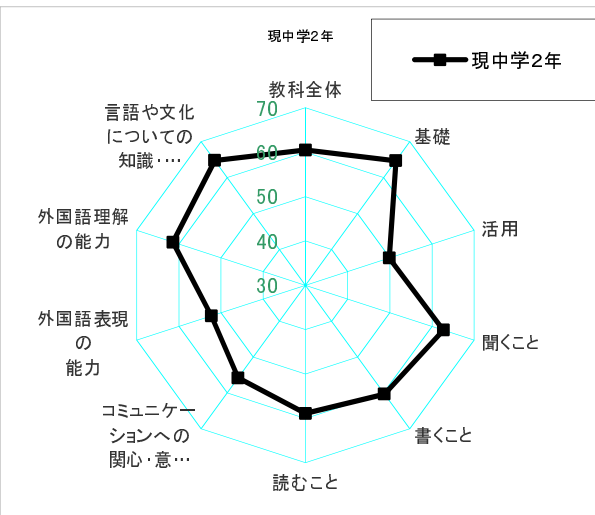
・柏市の正答率は、「聞くこと」と「外国語理解の能力」の領域・観点以外において全国の正答率を上回っている(0.9ポイント~4.4ポイント)。「聞くこと」は全国より0.1ポイント下回り、「外国語理解の能力」は同ポイントであった。

・柏市の強みと弱みの傾向は、全国と似ており、「活用」と「外国語表現の能力」が他のものと比べ弱いことが分かる。

・正答率の低い問題は、英語で書いて答える問題で、綴りが間違っていたり曖昧に覚えていたりして間違えている。(正答率24%、綴り等のミス43%)

・このような問題を正答できるようにするには、簡単な英作文の指導を工夫する必要がある。

2. 経年変化



コメント

コメント

・今年度の正答率は、昨年度とほぼ同じ傾向と言える。

・「活用」の観点が他に比べて劣っているが、口頭での表現ができたとしても、書き表す時点での間違いが原因の一つと言える。

3. 強みと弱み

正答率の高かった学校とそうでなかった学校との「強み」及び「弱み」は異なる点が見られる。

正答率が高かった学校:「強み」としてあげられる点は、基本的な単語のつづりや、語順等の文の構造を理解できている生徒が多いというところである。「弱み」は、聞き取りや長文読解の問題において、その内容について英語の質問に対し英語で答える際に正確さが欠けることである。

正答率が低かった学校:リスニングのうち、英文の要点や内容を聞き取る問題の正答率が低い。単語のレベルではなく、ひとまとまりの英語を聞き取る力が弱いようである。正しい語順で書く問題については、比較的単純な構造の文の正答率は低くはないが、疑問文や否定文になると正答率が下がるという結果が出ている。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

帯活動について

1. 帯活動のねらい

- ① 継続して行うことで, 英語に慣れる, 上達が感じられる
- ② 口についてでてくる(活用できる)

2. 指導するにあたり

- ① 継続して行うためには飽きさせない(生徒の様子を見ながら難易度を考えて)
- ② 楽しむ要素を取り入れる(チャンツ, 競い合い, 制限時間を設けて言う)
- ③ 身に付いたかどうかの確認(小テスト)

3. 帯活動の内容

- ① すらすら英単語
- ② すらすら英会話
- ③ 弾丸インプット 等

① すらすら英単語

1	家族	family
2	父	father
3	母	mother
4	親	parent
5	息子	son
6	娘	daughter
:	:	:
自分	5	
相手	4	
勝敗	○	

② すらすら英会話

1	わたしも	Me too.
2	本当に?	Really?
3	ええと	Let me see.
4	もちろん	Of course.
5	もちろんちがいます	Of course not.
6	そのとおり	That's right.
:	:	:
自分	5	
相手	5	
勝敗	△	

③ 弾丸インプット

SR=Speed Reading S=Speaking

1	Who's that girl?	SR	✓	✓	あの女の子は誰ですか?
		S	✓	✓	
2	That's Alexandra.	SR	✓	✓	アレクサンドラだよ。
		S	✓	✓	
3	Alexandra?	SR	✓	✓	アレクサンドラ?
		S	✓	✓	
4	Yes. We usually call her Alex. She is a good basketball player.	SR	✓	✓	そう。私たちは彼女をたいていアレックスとよんでいるよ。彼女はいいバスケットボールの選手なんだ。
		S	✓	✓	
5	Oh, is she? Why do you know her?	SR	✓	✓	そうなんですか? どうして彼女の知っているの?
		S	✓	✓	
6	Because she lives near my house.	SR	✓	✓	彼女は私の家の近くに住んでいるんだよ。
		S	✓	✓	
:	:	SR			:
		S			

A(8~10個) B(5~7個) C(2~4個) D(0~1個)

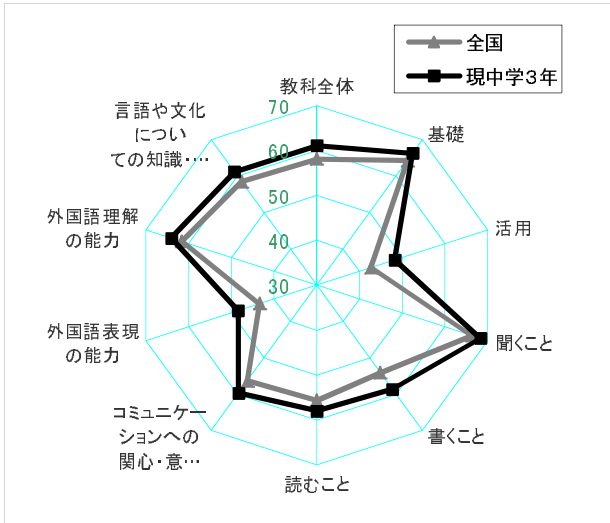
	日付	6/23			
評価	SR	A			
	SR	B			

〈参考文献〉

目指せ! 英語授業の達人 シリーズ 明治図書

中学 3年 英語

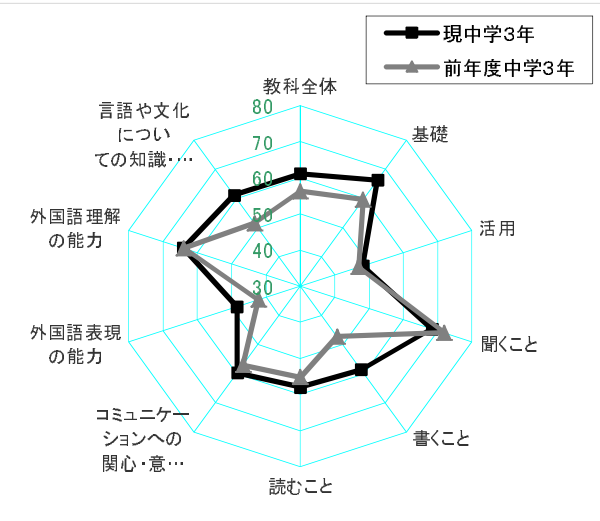
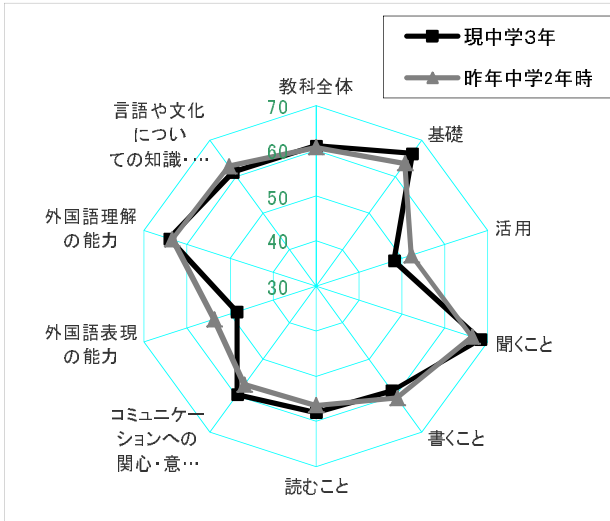
1. 全体傾向



コメント

・柏市の正答率は、どの領域・観点においても全国の正答率を上回っている(2ポイント～5.5ポイント)。
 ・柏市の強みと弱みの傾向は、全国と同じで、「活用」と「外国語表現の能力」が他のものと比べ弱いことが分かる。
 ・正答率の低い問題は、英語でどのように表現するかを問われ、英語で書いて答える問題である。(正答率が最も低かったのは、ひとまとまりの英文を読んでその内容について英語の質問に英語で答える問題であった。20.1%)
 ・弱みを克服するための授業内の活動として、教科書のQ&Aを工夫して行う必要がある。

2. 経年変化



コメント

・2年次と3年次における強みと弱みの傾向は大きく変わっていないと言える。
 ・3年次における「書くこと」と「言語や文化についての知識・理解」は、他の観点に比べて下がっていないことが分かる。

コメント

・昨年度の傾向と同様、「活用」の力と「外国語表現の能力」が他の力に比べて弱いことがわかる。
 ・昨年度と似た傾向であるが、「書くこと」と「言語や文化についての知識・理解」、「基礎」の力が身につけていることがわかる。

3. 強みと弱み

全体の傾向から、次にあげる内容の問題は正答率がよく、強みと言える。

- ・リスニングの問題のうち、絵の内容と合う英文を選ぶ問題や、内容についての質問の答えを選ぶ問題
- ・日本語の意味を表す英文になるように、基本的な単語を空欄に書く問題。
- ・正しい語順に並べ替える問題のうち、同等比較の文(as～as)。

全体の傾向から、次にあげる内容の問題は正答率が悪く、弱みと言える。

- ・英語の質問に対し、英語で答える(対話の内容を聞き取り答える、まとまりのある英文の内容を読みとり、答える)。
- ・場面に応じた表現を英語で書く(天気をたずねる、相手に依頼をする)。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

3年間を通じた「チャット(おしゃべり)」の指導 ～帯活動で慣れさせる, 力をつけさせる～
全国的な傾向と同様, 柏市においても他の観点と比べて劣っている, 「活用」の力と「外国語表現の能力」を補う取組み。

パターンプラクティス的な文型練習の延長上ととらえる。しかし, 個々でどの表現を用いて自分の考え等を伝えるのか, 会話を継続・発展させるためにどの表現を選択するのかという場面を設定し, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ることができる。

1. 指導するにあたり

- ①チャットのモデルは教師自身が使う英語。
- ②生徒同士では間違った会話の生産になる危険性があるが, 会話練習の効果がないとは言えない。
- ③外国語で会話をする能力は, その言語で頻繁に会話をすることによって発達する。
- ④楽しみながらチャット指導をする(ALTの活用等)。
- ⑤あいづち, 決まり文句に頼りすぎない。

2. 何の力をつけるか

- ①聞くこと
 - ・具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができること。
 - ・聞き返したり適切な質問をしたりしようとしている。
 - ・「さらに質問をすること」ができること。
- ②話すこと
 - ・単語や文を正しく発音して話すことができること。
 - ・つながぎ言葉や相づちを使うなど, 工夫して話し続けている。
 - ・情報(事実・感想)を足しながら, 「2文以上で詳しく答えること」ができる。

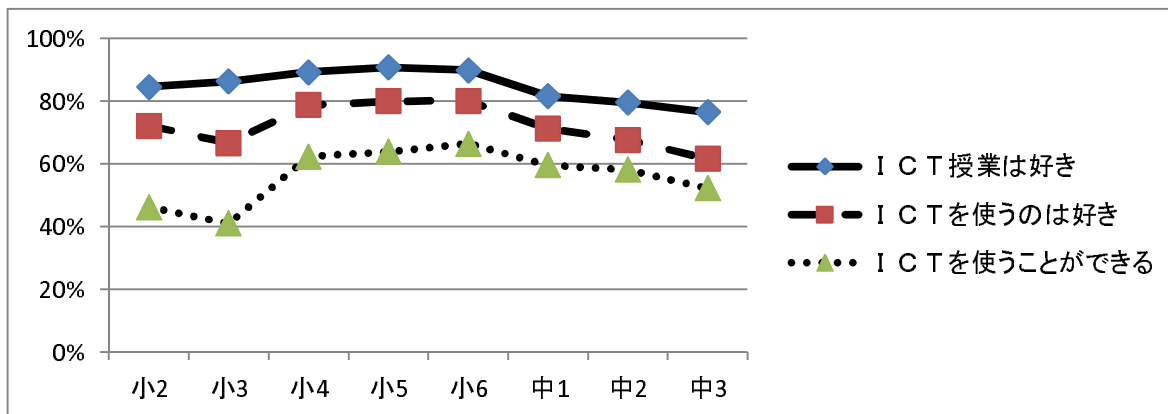
3. どのようにして力をつけるか

- ①聞くこと・話すことを学ぶ姿勢づくり
 - ・単語(語彙)を増やす練習【**すらすら英単語, チャンツ**】
 - ・言葉の入れ替え練習【**パターンプラクティス**など】
 - ・文の変換練習【**否定分・疑問文への書き換え**など】
 - ・自己表現する練習
- ②コミュニケーションの土台づくり
 - ・コミュニケーション ストラテジー【**相づち, つなぎ言葉, 繰り返し, 聞き返し**などを使う練習】
- ③コミュニケーションの基礎づくり
 - ・相互に情報を伝え合う練習として, 事実と感想を足して伝える(2文以上で表現するために and, but, because を使った表現を練習させる)
 - ・相手に意見を求めたりさらなる情報を求めたりする(さらに質問する)
- ④チャットの練習
 - 実際にチャットをする練習
 - ・毎時間, 違うパートナーと
 - ・違う話題で
 - ・2年生で1分間, 3年生で2分間

〈参考文献〉

目指せ! 英語授業の達人 7
中2で楽しく会話が続く! 「2分間チャット」指導の基礎・基本
道面和枝 著 明治図書

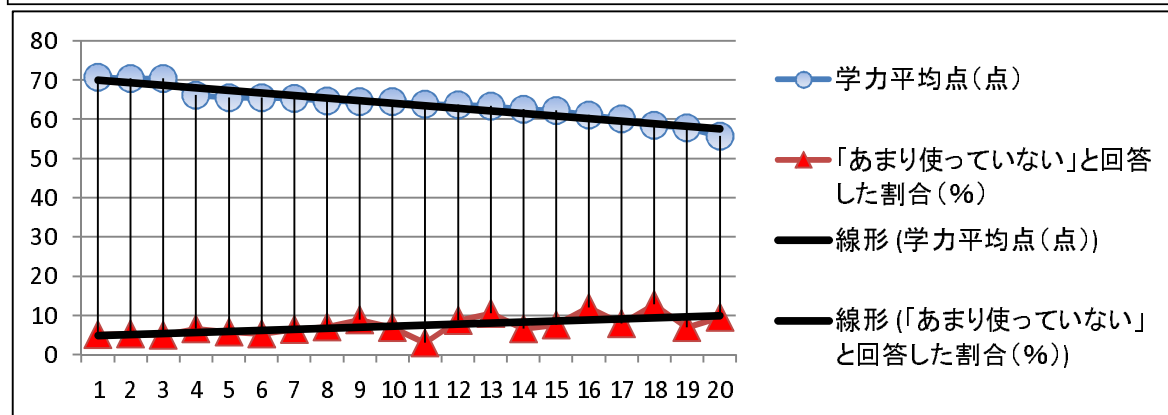
ICT活用に関する意識と課題



ICT授業は好き 先生やともだちがコンピュータやプロジェクタをつかう授業は好きですか。
 ICTを使うのは好き じぶんがコンピュータやじつぶつとうえいきをつかうことは好きですか。
 ICTを使うことができる じぶんひとりでコンピュータやじつぶつとうえいきをつかうことができますか。

小学校では、3年生で低下傾向がみられます。ITアドバイザー授業支援要請が2年生は少ないことから、2年生時でのICT活用機会の減少が原因として考えられます。カリキュラムに位置づける等の工夫が必要です。また、中学校では、1年生から低下傾向がみられます。普通教室のプロジェクタ常設化やパソコン無線化等による環境整備を進めていますので、ICTを日常的に活用した、授業改善をお願いします。授業を今よりも、もっと良くするためにテクノロジーを利用する。そして、発達の段階に応じたテクノロジーの利用方法や指導方法についても工夫が必要です。

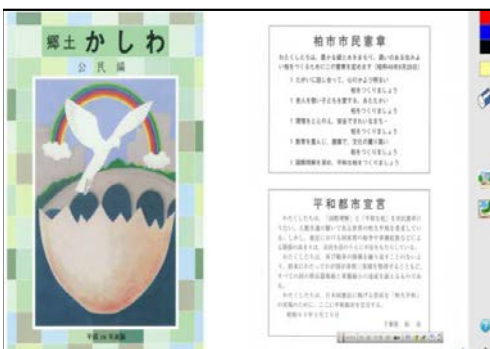
学力平均点とICT機器利用率の関係（中学校20校）



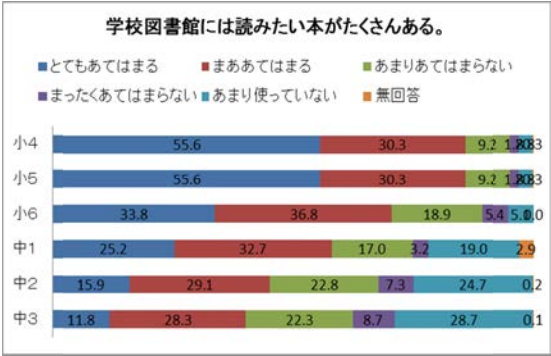
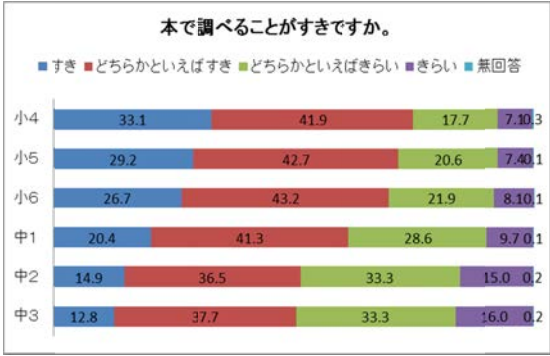
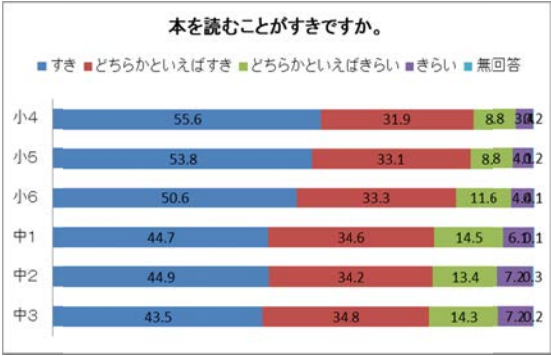
「学力平均点とICT機器利用率の関係（中学校20校）」をみると、学力平均点とICT機器の利用率には正の相関関係があることが分かります。学力を向上させていく手段として、良好で質の高い新たな学びを実現するICT教育環境の整備は、必要不可欠なものです。

ICTを活用する新たな学びには「子どもたちの学習への関心・意欲を高める学び」「一人ひとりの能力や特性に応じた学び(個別学習)」「教え合う学び(協働学習)」、「つながり広がる学び」、「特別な支援を要する子どもの可能性を高める学び」がある。新たな学びを実現させるためには、教員の新たな学びに対応した指導力及び指導方法の向上が不可欠であり、研修カリキュラム開発や教員研修体制の構築・様々な学校種・発達段階に応じた指導方法の充実等を図る必要がある。(「文部科学省 学びのイノベーション事業 ICTを活用する新たな学び」より)

柏市教育委員会では、ICTの効果的活用に向けた様々な準備をしています。
 まず、インターネットは各学校の学習メニューから、各教科→単元と入って行って利用するように心がけ、子供たちに適切な情報にアクセスできるようにしましょう。
 学校図書館の本とWebを利用する場合は、パスファインダーのページを利用しましょう。
 柏市教育委員会が制作している社会科副読本のデジタル版が完成しました。動画や画像が豊富に入っています。書き込み機能もあります。授業での活用をお願いします。



学校図書館の活用は、児童生徒の21世紀型学力を育む



1. 本を読むことが好きな児童生徒は多く、学校・学年が上がっても減少は少ない傾向にあります。
2. 本で調べることが好きな児童生徒は学校・学年が上がると減少する傾向にあります。
3. 学校図書館を使った授業を好む傾向は小学校では高いが、中学校では低くなる傾向にあります。

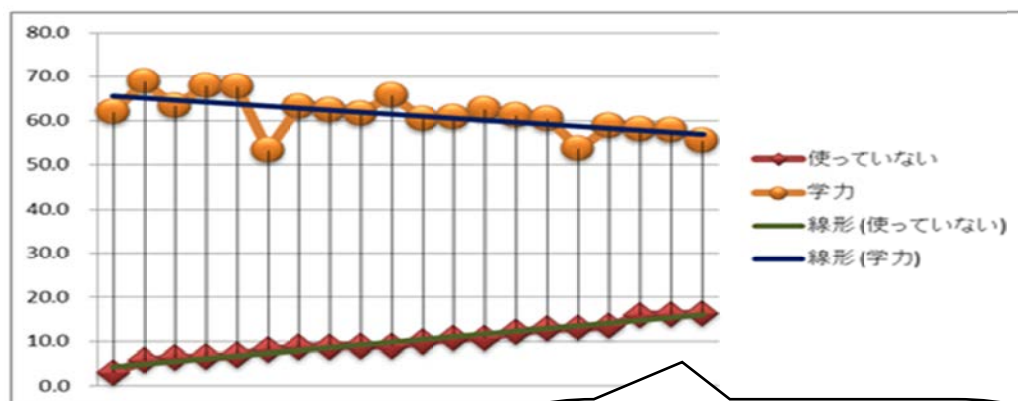


中学校での3年間のデータを比較すると、学校図書館を活用した授業を好きと回答する生徒は年々増加しています。各中学校での活用が進んでいる証拠であると考えられます。

あまり利用していないと回答している児童生徒が10%から20%程度いる。最も人数が多いのは、小学校3年生です。内容を詳細に分析すると、学級による偏りが強く見られます。

学校図書館を活用した授業は、これからの子供たちにとって必要不可欠の学習活動です。学校図書館指導員との連携を図り、本を準備して学習指導を行うよう、司書教諭を中心とした取り組みをお願いします。

使っていないと回答した割合と学力の関係



学校図書館を使っていないと回答した生徒の割合が高い学校は、学力が低い傾向が見られます。

⇒「読みたい本」の配架に加えて「読ませたい本」や「調べ学習で活用する本」の配架と啓発が大切です。

⇒インターネットを使用しての調べ学習は手軽ですが、正確な基礎情報を本により獲得し、その発展的な情報検索としてインターネットを利用するなどの学習の展開が考えられます。

このような学習を効果的に行うためには、パスファインダーを活用しましょう。

⇒インターネットを使用しての調べ学習を行う際は、検索するアドレスを指示するなど、むやみやたらな情報検索とならないように活動の充実に配慮することが大切です。「調べる活動あって学びなし」とならないように配慮して行うことが大切です。

⇒学校図書館指導員の配置日数が増加しました。1校に一人勤務の体制になっています。

授業の補助を行うことが、指導員配置の大きなねらいです。

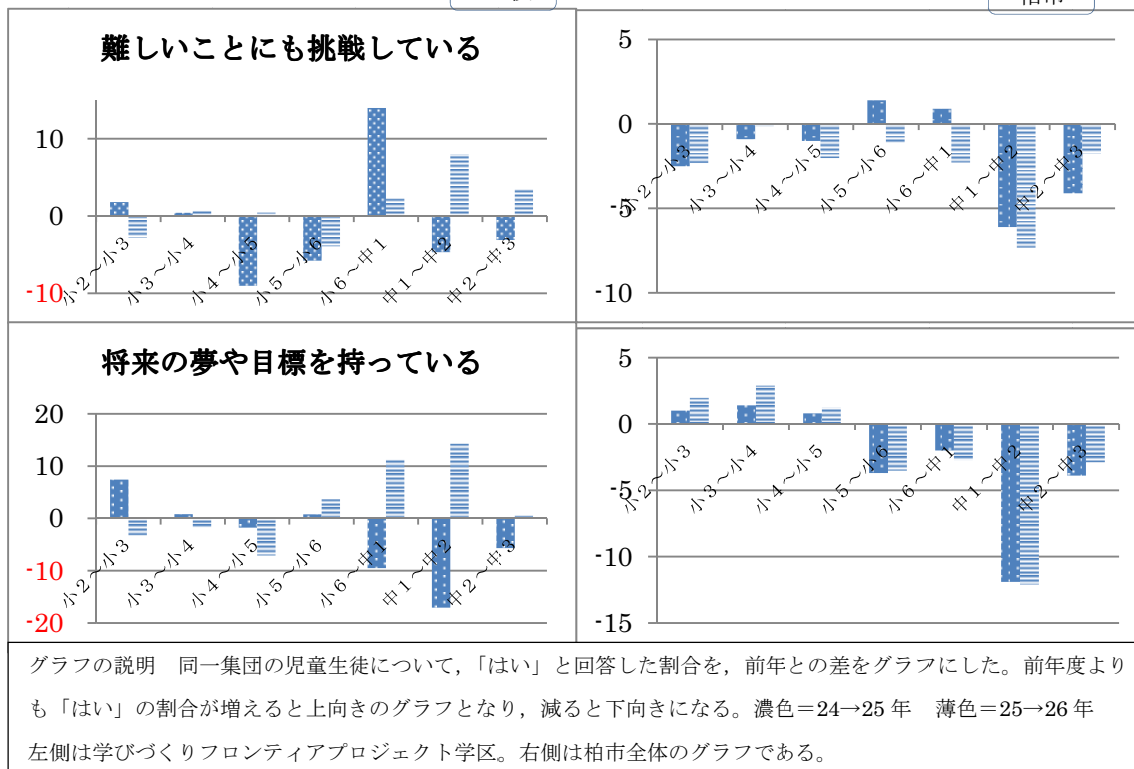
子供たちが、一人一人疑問を持ち、学校図書館で課題解決を図り、さらにまとめて学習結果を発表する、といった型の学習を多く展開できるよう、指導員と密に連絡を取り合って、授業改善を進めてください。

学習状況調査に見られる小中連携の効果

1 中1ギャップを滑らかに接続する

PJ校

柏市



昨年度調査から、「難しいことにも挑戦している」「将来の夢や目標を持っている」「自分にはよいところがある」「家族と学校での出来事について話している」「学校が好きだ」「計画を立てて勉強している」「問題が解けない時解けるまでがんばる」等、自尊感情に関する7項目において、中1から中2にかけて「はい」と回答する割合が大幅に減少する傾向を把握しました。これは、いわゆる中1ギャップと呼ばれる心の変化ではないかと推測しました。この解消に向けては、ギャップを乗り越えやすくするために、滑らかな接続が課題であると考えました。

そこで、学びづくりフロンティアプロジェクトに参加した中学校において、学ぶ意欲の向上に向け、中学1年生に対して、定期考査前に補習学習を行ったり、長期休業中に補習学習を行ったりするきめ細やかな取り組みを行ったため、その結果について分析をしました。

その結果、取り組み前はマイナス傾向だったものが、取り組み後にプラスになる結果を7項目中6項目で得ることができました。

学びづくりフロンティアプロジェクト校においては、9年間で育てる子ども像を明らかにして、小中が連携して学校図書館を核とした教育活動に取り組み、それに対して教育委員会が重点的な支援を行っています。

この結果についてはさらに検証が必要ですが、学ぶ意欲を高めるよう、子供たちにわかる授業を実践していくことは、子供たちに自尊感情を育み、前向きに取り組む姿勢につながるものと考えられます。

2 家庭学習の習慣化(ルール)を中学校区で統一する

昨年度の報告の中で、家庭学習の習慣化について課題があることを指摘しました。

家庭学習 30 分以内の児童生徒は、小学校 4 年生段階 50% 近くいるが、中学校 3 年生になっても 40.6% であり、小中連携の中で改善すべき取り組みであることを指摘しました。

各中学校区において様々に取り組みられていることと思いますが、家庭学習時間と家庭学習方法について、中学校区で取り決めを行い実践した学区で以下の効果が見られました。

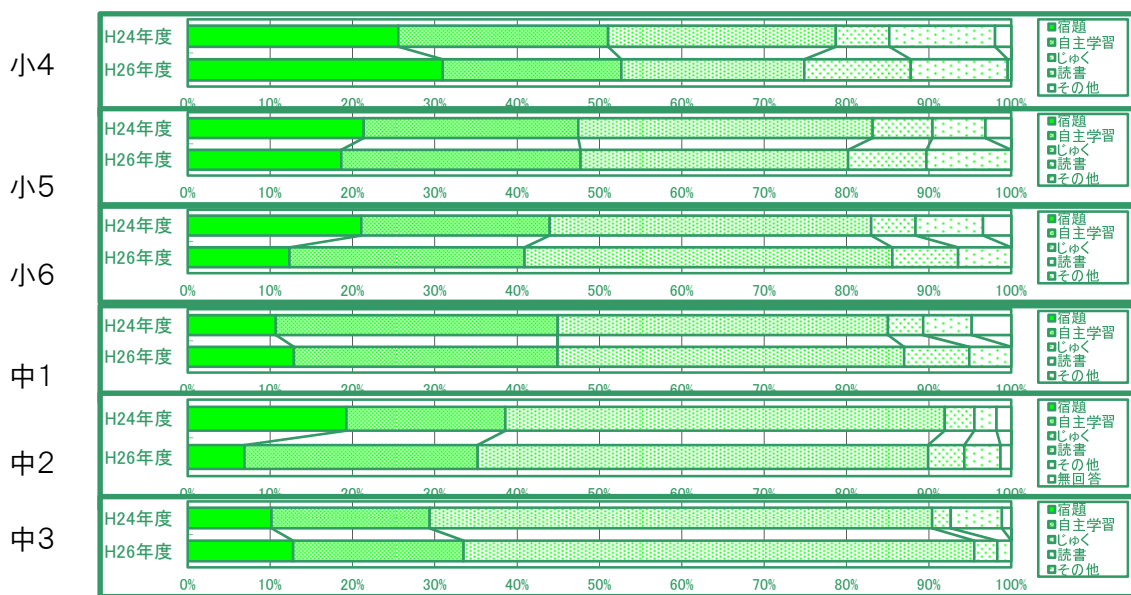
表1 柏市全体の家庭学習状況の3年間の変化及び小中連携家庭学習実践学区の変化

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	小中連携学区	小中連携学区
	柏市全体	柏市全体	柏市全体	平成 24 年度	平成 26 年度
小学 4 年生	46%	48%	48%	36%	32%
小学 5 年生	42%	41%	41%	29%	25%
小学 6 年生	36%	37%	32%	20%	13%
中学 1 年生	39%	37%	36%	21%	4%
中学 2 年生	44%	44%	41%	29%	7%
中学 3 年生	35%	41%	35%	19%	6%

表1から、柏市全体では顕著な改善は見られないが、小中連携の柱として家庭学習の習慣化を掲げた学区では、家庭学習 30 分以内の子供が減少する効果が認められています。

さらに、家庭学習内容について結果を分析すると、小4では宿題と読書が 10% 増加し、小5では自主学習と読書が 5%、小6では自主学習と読書が 8.5%、通塾 5% 程度増加しています。中学校では中2で自主学習が 9% 増加しています。

これを、平成 24 年度を元とした伸び率を分析すると、読書時間が最も増加し、全学年平均 152% 増、次に自主学習の 112% 増となっている。通塾率に変化は見られず前述の 2 項目に顕著な効果が見られたことについて、さらに分析をして一般化をはかります。



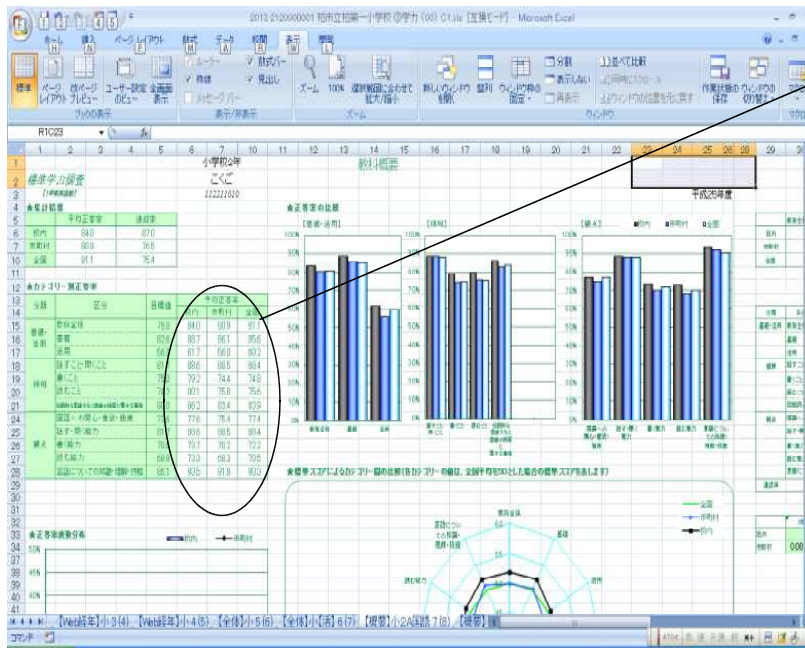
家庭学習内容割合グラフ

レーダーチャート分析シートの利用方法

このシートは、当該学年の結果を柏市全体・1年前の結果・昨年度の学年の結果、と簡単に比較できるように作成したものです。

- シートは学年ごと、教科ごとに用意してあります。
- 各学年の柏市平均正答率は既に入力済みです。
- シート上の指示に従って以下のように数値を入力してください。
- 入力するためのデータは、次のファイル名のファイルを開いて、各教科ごとに下画面のシートから転記してください。

ファイル名＝***** 柏市立学校名①学力(00)C1.xls



ここのデータを転記する。

昨年度のデータについても、H24年度フォルダー内の同名ファイルより転記する。

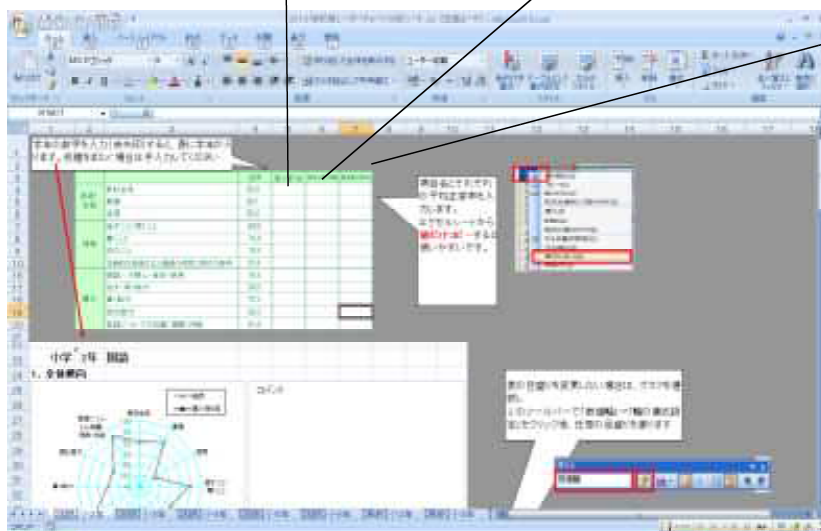
コピーする際に、4行ずつコピー貼り付けをしてください。

エクセルシートに非表示の行があるので、「基礎活用 領域 観点」と分けてコピーしてください。

今年の平均正答率を転記

昨年（1年前の当該学年）の平均正答率を転記

昨年度同学年の平均正答率を転記



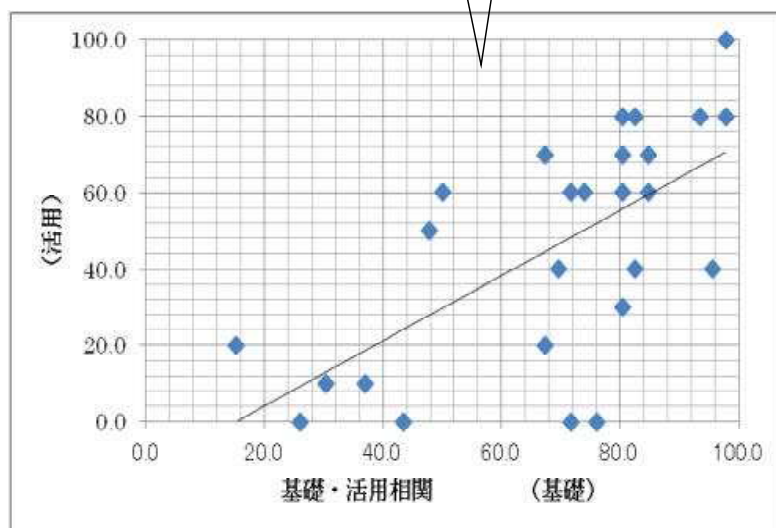
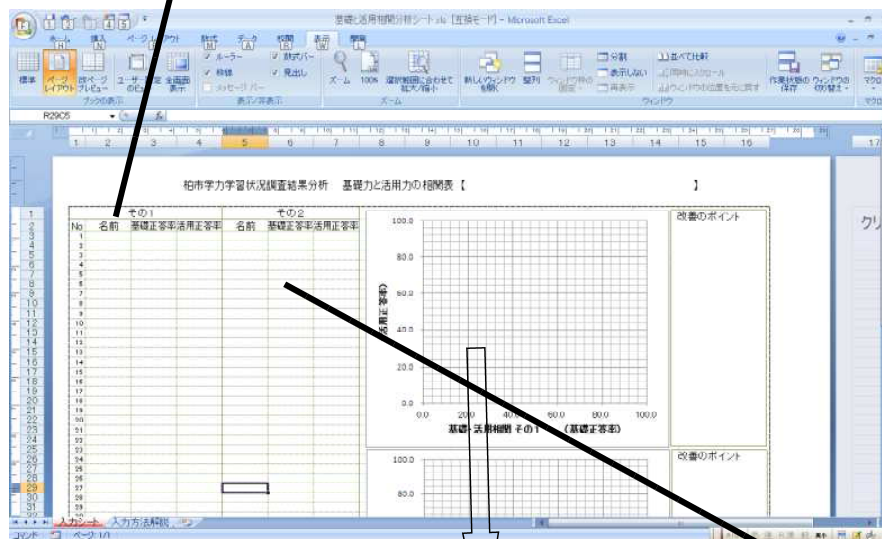
上記操作により、柏市との比較、去年の自分たちの結果と比較、去年の学年との比較ができます。学年の特徴を把握して、指導に生かしてください。

基礎と活用相関分析シートの利用方法

各学級ごとに、基礎的な力と活用の力について、一人一人の子どもたちの分布状況を明らかにし、学級の特徴や一人一人の子どもたちの状況を可視化するものです。

- 「****柏市立学校名第*学年①学力(**).xls」のファイルから、各学級ごとの、基礎と活用の平均正答率を転記（コピーペースト）して活用してください。
- 「入力方法解説」のシートに説明がありますので、参照してください。
- 入力シートはシートのコピー等で増やして活用してください。
- 東京書籍から提供されているデータは、列や行を隠してあるところがあります。面倒でも、一列ずつコピー貼り付けをお願いします。貼り付ける際に、値のみ貼り付けを選択していただくと最適です。
- その1とその2は便宜的につけたものです。国語と算数・去年と今年、など読み替えて利用してください。

子どもの名前を転記した際には、扱いに十分留意してください。



基礎正答率と活用正答率を入力（転記）すると、自動的に左記のようなグラフが作成されます。

学級全体の状況が把握できる同時に、一人一人の子どもたちの状況を把握できます。

分布状況を生かした、適切な改善策を各担当の先生で考えることができます。

平成 26 年度

柏市学力・学習状況調査結果報告書

「課題解決を支える意欲のために・・・」

編集 柏市教育委員会学校教育部指導課

柏市立教育研究所

発行 柏市教育委員会

2014 年 7 月